

平成18年度

げんきフォーラム記録集

市制90周年 魅力あるまちをめざして ～ 地域で育むまちづくり ～

と き 平成19年1月27日(土)午後2時～午後4時
ところ 生涯学習センター(クリエイトホール)5階ホール
参加者 244名

八王子市 総合政策部 広聴広報室

目 次

頁

はじめに 1

コーディネーター及びパネリストの紹介 2

フォーラムの記録

市長挨拶 3

パネルディスカッション 5

会場でのアンケート結果（要 旨）

1．パネルディスカッションの内容等についての感想 3 9

2．「魅力あるまちをめざして」についてのご意見・ご提案 4 4

3．今後、取り上げてもらいたいテーマ等 4 9

資 料

開催告知用チラシ 5 3

会場配布用アンケート 5 4

はじめに

本市では毎年、市政に関わる様々なテーマについて、市長ほか3名のパネリストによる公開討論をおし、市民の皆さんとともに考える「げんきフォーラム」を開催しています。

そこで本年は、平成18年9月に制定しました「八王子市地区まちづくり推進条例」を広く市民にPRし、活用を促すとするとともに、パネリストからの意見・提案及び来場者との意見交換などを通じて、条例運用の参考とするため、「市制90周年 魅力あるまちをめざして ～地域で育むまちづくり～」をテーマにフォーラムを開催しました。

この冊子は、平成19年1月に開催しましたフォーラムで討論された内容をまとめたものです。今後の参考にさせていただければ幸いです。また、情報量の増加にともない、印刷物を中心とした公表方法では対応が困難となってきたことから、市ホームページでの公表による情報提供を中心に行っていくこととしています。

最後に、貴重な御意見を発表していただきましたパネリストの関谷様、荒井様、和田様、またフォーラムを進行していただきましたコーディネーター役の林様、そして会場にお越しいただきました多くの市民の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成19年7月

八王子市 総合政策部 広聴広報室

コーディネーター及びパネリストの紹介

【コーディネーター】

林 泰義 氏（まちづくりプランナー、NPO玉川まちづくりハウス運営委員）

1975年以降、都市計画調査、研究を通じ地区計画制度の創設等に係わる。また、まちづくりプランナーとして、世田谷、神戸の真野など各地で参加のまちづくりを進め、コミュニティの改善や再生に関するさまざまなプロジェクトに携わる。1980年代後半から、まちづくりや住宅再生のためのNPOの育成などを提唱。幅広い支援活動にも関わっている。同時に、関連する政府や自治体の法律制度、社会的仕組みの調査・提案を行い、日本の新たな市民社会システム創造に傾注している。千葉大学客員教授、政府審議会の専門委員などを歴任。主な著書に『NPO教書』（共著、風土社1997年）、『新時代の都市計画2市民社会とまちづくり』（編著、ぎょうせい、2000）、『都市の再生を考える7公共空間としての都市』（共著、岩波書店、2004）など。

【パネリスト】

関谷 真一 氏（NPO法人らいふ舎理事長、一級建築士）

八王子市で生まれ育ち、1980年工学院大学大学院建築学科修士課程修了。学生時代から地域に根差したまちづくりを考え続けている。工学院大学建築学科非常勤講師。八王子市民活動協議会理事。夕焼けの里地域福祉フォーラム実行委員長。NPO法人らいふ舎で、福祉やまちづくりの活動を展開。市の助成を受け、「はちおうじ散策絵図」、「おんがた散歩絵図」を出版。現在、「八王子まちかど・まちなみコンテスト」を実施中。

荒井 嘉夫 氏（みなみ野自然塾代表・運営委員長、桐朋中学・高等学校教諭）

平成9年、みなみ野シティの街開きとともに、八王子市みなみ野に移り住み、家族4人でみなみ野自然塾入塾。平成14年、みなみ野自然塾が都市整備公団より独立後、代表・運営委員長を務める。みなみ野自然塾は「里地里山の伝統・文化の継承と新たな創造、新旧住民が協働しての街づくり、次世代に継承する生活文化の創造」を目的とし、塾生以外の新旧住民、地元の学校・NPO法人・市民団体・自治会等との連携を大切に、「楽しむ」ことを第一に活動を続けている。みなみ野自然塾は「第22回緑の都市賞内閣総理大臣賞」などを受賞している。

和田 聡美 氏（公募市民・大学院生）

多摩美術大学大学院デザイン専攻グラフィックデザイン領域1年。まちづくりや都市に関わるグラフィックデザイン「環境グラフィックス」を制作テーマにしています。学部時代は多摩美術大学環境デザイン学科に在籍し、現在は制作とともに、都市景観セミナーやサイン学会などの景観やまちづくりに関するセミナー・講演会などのサポートをしている。

黒須 隆一（八王子市長）

八王子市議会議員3期、東京都議会議員2期、2000年より現職（2期目）。政治信条は、「夢と説得力」。都市経営の視点から「八王子元気計画」を掲げ、あらゆる改革に取り組んでいる。現在、市民との協働によるまちづくりの推進など、魅力あるまちづくりに向け邁進中である。

げんきフォーラム ～市制90周年 魅力あるまちをめざして～

司 会 皆さん、こんにちは。長らくお待たせをいたしました。本日は多くの皆様にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

それでは、ただいまから「げんきフォーラム」を開催いたします。

「市制90周年 魅力あるまちをめざして ～地域で育むまちづくり～」と題しまして、市長を始め4名のパネリストの方々によりますパネルディスカッションを通して、会場の皆様とともに本市の魅力あるまちづくりについて考えてまいります。なお、私は司会を担当させていただきます広聴広報室主幹の山下です。どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

それでは、最初に主催者を代表いたしまして、八王子市長黒須隆一より、ご挨拶を申し上げます。

市 長 皆さん、こんにちは。ご紹介をいただきました市長の黒須隆一でございます。

今日は、土曜日という貴重な休息日にもかかわらず、この「げんきフォーラム」に大変大勢の皆さんにご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。また、日ごろから市政各般にわたりましてご支援、ご協力をいただいておりますことも、あわせて厚くお礼を申し上げます。

「げんきフォーラム」は、私は平成12年に市長に就任をいたしましたけれども、15年度までは「ふれあいフォーラム」という名称でございまして、続けてまいりました。16年度から「げんきフォーラム」という名前にちょっと名称を変更したということでございますけれども、それぞれのテーマに応じて、私もパネリストになるわけですけれども、皆様から直接いろいろなお話のテーマに沿ったお話を直に聞かせていただける、大変貴重な機会だというふうに私は毎年思っておりまして、今年も実は大変楽しみにしてまいりました。どうぞ、よろしく願い申し上げたいと思います。



昨年は、市制90周年という区切りの年でもございました。記念事業、あるいはまた記念式典等を開催いたしましたわけですが、私が市長として、この

周年行事というのは最初で最後だろうと思いましたので、100年は次のどなた

かがやられるのだらうと思ひまして、ですから90年は、これはもうしっかりやらなければいけないなあと、そんな思いで取り組ませていただきましたけれども、お蔭様で、式典、あるいは各事業とも滞りなく終了をいたしたわけでございます。その中で、新しい試みとして八王子の国際化へ向けての第一歩といたしまして、東アジアの三つの都市と友好交流協定を結びました。

それからもう一つは、まだ記憶に新しいところでございますけれども、ガスパルカサド国際チェロコンクール、これを、開催をいたしたわけでございますが、お蔭様で大成功でございました。大変な評価と言いますか、内外ともに評判も非常に高うございましたし、あの辛口の朝日新聞の「アエラ」という週刊誌がございませぬ、あの「アエラ」で浜松のピアノ、仙台のバイオリンですか、それから「八王子がチェロのまちとして一步を踏み出した」という非常に高い評価で書いてございまして、私、非常に嬉しかったのですけれども、いずれにしても国際化へ向けて第一歩を踏み出した、音楽のまちとしても八王子の将来は明るいのではないかなと、私はそんな思いです。

これは、行政が中心になって開催したのではなくして、市民の皆さんが力をあわせて頑張った、行政はバックアップをさせていただいた、こういうこととございまして、私は改めて、八王子市民の文化度の高さ、それからまた「市民力」です、市民力はすごいなあと感動すら私は覚えました。ですから、これからまちづくりにこのすばらしい市民力を、市民の皆さんの力をおかりして、まさによきパートナーとして一緒にまちづくりを進めていきたい、その思いを強くいたしたところでございます。

今年は実は、今度はハードの面で一つの区切りがつくものもございませぬ。下水道が今年100%、終わります。これは調整区域も含めて、もっとわかりやすく言うならば高尾山のとっぺんまで、こういうこととございまして、下水道が100%終了いたします。

それから、6月には圏央道が中央道と結節をされます。これは、私は画期的なことだらうというふうに思ひます。このことによって、八王子が東京の西の玄関口になっていくだらう、こんなふうに思ひしております。

それから、南口の再開発です、これが着手をされます。着工されます。それと、都内初めての道の駅が4月1日にオープンをいたします。これはぜひ、奥様方には楽しみにしていただければと思ひます。ここで、八王子の特産の野菜を新鮮な、しかも安全な野菜を直売所で販売をいたします。それにあわせて、ひよどり山有料トンネルの無料化をいたします。ですから、八王子も一つの区切りができて、ハードの面でまた新しい第一歩を踏み出す、こういうふうな位置づけをいたしておるわけとございまして、ぜひ皆さんのご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。

さて、今日の「げんきフォーラム」でございませぬけれども、今日は「魅力

あるまちをめざして ～地域で育むまちづくり～ 」、このようなテーマでございます。NPO法人の玉川まちづくりハウス運営委員の林泰義さんがコーディネーターとしてお力添えをいただいて、パネリストの皆さん、そしてまたご来場の皆さんと一緒に、元気なまち八王子が愛着の持てる、そしてずっと住み続けたいと思っただけのような魅力あるまちづくりを目指して、今日は皆さんからご意見もいただきながら有意義な会にしたい、こんなふうに思っておりますので、どうぞ協力をよろしくお願いを申し上げまして、ご挨拶にさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。よろしくお願ひします。(拍手)

司 会

ありがとうございました。

それでは、ここでコーディネーター及びパネリストの皆様がご入場されますので、大きな拍手でお迎えください。(拍手)

では、コーディネーター及びパネリストの皆様をご紹介させていただきます。

最初に、本日のコーディネーターをお願いいたしました林泰義様でございます。

林

林です。よろしくお願ひします。

司 会

林様は、NPO法人玉川まちづくりハウス運営委員をされておられます。まちづくりプランナーとして全国各地のまちづくり、コミュニティーに関するさまざまなプロジェクトに携わるとともに、千葉大学客員教授、政府審議会の専門委員などを歴任され、まちづくりに関する著書も多数著すなど、ご活躍をされておられます。

続きまして、パネリストの皆様をご紹介いたします。舞台中央より、関谷真一様でございます。

関 谷

関谷です。よろしくお願ひいたします。(拍手)

司 会

関谷様は、NPO法人らいふ舎理事長をお務めでございます。本市でお生まれになり、学生時代から地域に根差したまちづくり活動を継続され、また、工学院大学建築学科非常勤講師、八王子市民活動協議会理事等もお務めで、福祉やまちづくり活動に熱心に取り組んでおられる方でございます。

続きまして、荒井嘉夫様でございます。

荒 井

荒井嘉夫でございます。よろしくお願ひします。(拍手)

司 会

荒井様は、みなみ野自然塾運営委員長としてご活躍でございます。平成9年からみなみ野にお住まいになり、みなみ野自然塾を通じて里地、里山の伝統文化の継承と新たな創造を目指し、地域住民や地元の学校、自治会等との連携を大切に活動を推進されていらっしゃいます。

続きまして、和田聡美様です

和 田

和田です。よろしくお願ひいたします。(拍手)

司 会 和田様は、今回のパネリストの市民公募にご応募をいただきました方
でございます。現在、多摩美術大学大学院でまちづくりや都市に関わるグラフィ
ックデザイン、環境グラフィックスを制作テーマとして取り組まれるるととも
に、景観やまちづくりに関するセミナー、講演会等のサポートなどご活躍を
されておられます。

最後でございます。八王子市長黒須隆一でございます。

市 長 黒須隆一でございます。どうぞよろしく願いいたします。

司 会 それから、本日の手話通訳の方々をご紹介いたします。大友様、仁村様、
須山様のお三方でございます。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

なお、本日の様子はケーブルテレビあるいは市のホームページ等で広く市
民の皆様にお知らせする予定ですので、あらかじめご承知おきいただきたい
と思います。

それでは、これからパネルディスカッションに入らせていただきます。コ
ーディネーターの林様、よろしく願いいたします。

林 それでは、4時までの時間ですが、皆さんとご一緒にまちづくり、「魅力あ
るまちづくりをめざして」というのが今日のメインテーマ、「地域で育むまち
づくり」ということですので、地域の皆さんが主役のまちづくりというこ
とを議論していきたい。一体全体、お役所はどういうふうにそれにバックア
ップをしていこうとしているのか、市長さんもお入りでありますので、そこら
あたりも率直なお話が伺えるのではないかとというふうに考えております。

まちづくりは、日
本でおおよそ40年50
年ぐらいの歴史が、
実はあるのです。非
常にユニークな歴史
がある。「まちづく
り」という言葉自体
は、市民が言い出し
た言葉です。法律制
度の中では都市計画



だとか、土木だとか建築だとか、そういう言葉が法律の中にはありますが、
「まちづくり」という言葉は法律の中で、法律として初めて聞こえるようにな
った言葉ではないですね。これは市民が言い出した。ですから、市民の思
いがそのまままちの活動の中に広がっていくと、そういう歴史を積み重ねて
きました。

今では、このフォーラムのテーマに「まちづくり」という言葉が、「地域で育むまちづくり」というふうに使われるように、皆さん共通の理解が得られるというふうなところまで参りました。それについて今回は、1月1日に実際に使えるようになった「まちづくり条例」というのがあるということですが、これは皆さんのお手元に「まちづくり条例」のパンフレットが配られていると思うのです。こういうようなパンフレットですね。後ほど、市長さんからもこのことは触れていただけたと思いますが、その条例にかかわらず、それだけでなく皆さん日々やっておられるまちの花づくりからお掃除から、それから具体的な再開発に至るまでさまざまなまちづくりがあるということをベースに、皆さんの身近なまちづくりの話を今日は主にさせていただけるのではないかと、こういうふうに思っています。

それでは一番初めに、このパネラーの皆さんに、一体何が一番自分にとって関心があって、



まちづくりを今やっておられるか。あるいはきっかけは何だったのだろうかというようなことを自己紹介を兼ねて、一言ずつ簡単に伺いたいと思います。よろしくお願いします。

まず、関谷さんの方から順次行きたいと思います。

関 谷

私は、八王子で生まれ育ち、八王子で今、建築の設計事務所をやっていますが、それと同時に市民活動をしています。もともと、例えば中学生、高校生のころはまちの中を自転車で走り回るのが好きで、川を歩いたり、山に行ったり、まちの中を歩いたり、そういうことが実は趣味、趣味と言うか楽しみでありました。

その後、大学で建築、あるいは都市計画を勉強したのですが、そこで、やはりその時からの思いは、そこに住んでいる人が自分のまちを考えることというのはとても必要なことかなと、そこに住んでいる人だけでなく、また外から来た人も含めてやっていく必要があるなということには思っていました。

それで、もう一つは八王子に浅川が流れていますけれども、そういう川、水の水系と言いますか、それでまちをつないでいくということもその時に関心がありました。

その後、昔からまちを歩くということがずっと続きまして、まち歩きをして、まちの中の建物をスケッチしたり写真を撮ったり、そんなこともやっていました。

そうやっていく中で、やはり身近な街角と言いますか、そういう環境、物がまちにとってとても大事なもの、決して文化財ではないけれども、「あの角の床屋さんがいいなあ」、あるいはちょっとした1本の木がいいなあとか、生け垣がいいかなと、そういうさりげないけど、まちにとって一応、生活にとって大事なものが本当に必要だし、それが本当のまちを生き生きしたものにするものだなというのが一つありました。

その後、福祉のことであるとか、また環境についてもいろいろ勉強したり、八王子市でいろいろな提案をさせていただいています。今、らいふ舎というNPO法人では、まちの絵地図をつくりまして、まちのいろいろないいところを紹介するというのを八王子市全体、あるいは恩方、高尾地区を周辺に



という絵地図をつくと、それを出版して販売するという活動。これは市の方の助成金もいただきましてやっています。現在はまちのいいところをそれぞれ調べて、それを公募しまして、そういうコン

クールを昨年と今年というふうに続けています。

また、今回のテーマに少し近いところで言いますと、恩方の方ですが、上小田野地区の小田野中央公園というところで、これは本当のお手伝いということですが、住民の方、あるいは市の公園課の方々と一緒に公園づくりを協働でやっています、それに参加させていただいています。やはりその中で、住民の方、あるいは行政の方、それと同時にもう一つ、ある程度専門的な方が加わりながらやっていくと、つなぎ役としてやっていくことがとても必要なことでもあると。そして、専門と言っても、もちろん外部から来たコンサルタントだけではなくて、むしろ市民として住んでいる、なおかつ専門的なことをわかっている人たちがよくよくそれをコーディネートし、つないで盛り上げていくということ、そういうことをじっくり話し合いながらみんなで進んでいくことで、だんだんよくなってきたなというふうに思いますので、また、この話の中でいろいろとお話をしたいと思います。

林

ありがとうございました。こういう地図ですね。何か楽しい地図を。

関 谷 そうですね。そういう地図、八王子の地図だけではなくて、いろいろと実は中国の杭州というところで、そういう地図を書いたりもしていますけれども、そういうものをやっています。

林 ありがとうございます。

 それでは、続いて荒井さんから、次をお願いします。

荒 井 みなみ野自然塾の荒井と申します。よろしくお願いします。何かたくさんの方がいらっしゃるの、ちょっと緊張しているのですが、立ち見が出るなどというのはすごいですね。それだけまちづくりに関心があるのだなと思っ



て、私もその一人ですが、います。

 みなみ野自然塾というのは、ちょうど八王子の駅からJRの横浜線で二つほど行った八王子みなみ野というニュータウンで

行っている自然塾です。ニュータウン開発で、もともと豊かな緑がたくさんあったのですが、そこを削り取ってしまっ、それでみなみ野自然塾をやっていると言われると、何か矛盾しているような気持ちにもなって……、でも何かこれらも開発と環境というのは絶えず私たち人間のテーマなので、やはりその矛盾の中で何を考えて、どうやって生活していくかというところが大事な点だというふうに思っています。

 新しいまちに住むということを考えまして、まち開きと同時にニュータウンに住みたいなというふうに個人的に思いました。で、国立から八王子に引っ越してきたのですね。何か、せっかく自分たちが住むまちなんだから、自分たちの手で作ってみたい。引っ越してきたわけですから、確かになけなしのお金をはたいて家を買いました。でも、税金を払ったり、自分でお金を出して何かを買うということもとても大事な生活に必要なものですが、その上で地域の人たちと結びついて、また行政とかと結びついて、このまちをやはり自分たちのまちにしていきたいというふうに思ったのですね。

 ここに、私たちの塾生の声がありますので、ちょっと読ませていただきます。2年ほど前に読売新聞の里地・里山コンテストというので、全国のベスト30に選ばせていただいて、その時に集めた塾生の声の一つですが、「私は、平成9年にまち開きをしたみなみ野シティに引っ越してきた新しい住民で

す。みなみ野自然塾は、この新しいまちでニュータウン以前にこの地域に暮らしていらっしゃった方々に米づくり、畑作業、雑木林の手入れ　これが3本柱ですね、地域内での自然との関わり方を教えていただくということで成り立っていると考えています。

私たち大人は、それぞれに生まれ育ったふるさとを持っています。でも、ニュータウンの住民ですから、みんなそのふるさとから新しいまちへ住んできた人が大多数です。それぞれに経験や思い出を持っています。でも子どもたちは、私の子どもも当時小学校の5年生と小学校の1年生でした。子どもたちは今ここに住んでいることが、この場がふるさとになるのだと思います。この地域での昔からの風習や文化、自然との関わり方、それらを教えていただきながら、私たち自身がこのまちの住民になっていく、子どもたちと共に大人である私たちも自分のふるさとをつくり上げていく、そういうふうな活動を、自然塾を通してやっていきたい」というふうに書いています。

自然塾の目的としては、里山文化の継承と発展、その地域の文化や伝統を掘り起こして、それをつなげていこうではないか。今、80歳前後の方々しか昔のことをご存じではありません。ですから、それをきちっと私たちは聞いて自分のものにして伝えていく、そして発展させていきたいと思っています。

それから、田んぼづくりや畑づくりや雑木林の手入れが中心の作業ですが、そういうことをやりながら地域の方々をつなげていきたい、そしてそれをまちづくりにつなげていきたいというふうに思っています。

もちろん、私たちは自然塾の作業を通してですが、例えば地域には前から住んでいらっしゃる住民の方々に、「宇津貫みどりの会」という会もありまして、その方々に丁寧ないろいろな作業をさせていただきました。

先ほど地図があったのですが、その方々の昔の地域の絵地図を残してくださっていて、それも伝えてくださっています。それからいろいろなことを教わりました。それから、昔の二つ前の方からもたくさんのことを教わりました。新しい住民もいろいろな輪があります。そういう輪を重ね合わせながら新しいまちづくりをしていく、私たちはその中の一つの輪だなというふうに思っています。

それから、次世代に引き継ぐ生活文化の創造、やはり僕たちは「暮らす」ということは何なのだろう。豊かな暮らしって何なのだろうということを考えながら、まちづくりに取り組んでいきたいというふうに思っています。

私たちがやっていくことはボランティア活動ではありません。雑木林の笹刈りもしたりなにかするのですが、これは本当に自分たちがみずから市や、都市機構が今、開発していますので、それと協働しながら小学校や地元のいろいろな方々と協働しながら自分たちのまちをつくっていく。で、そのキーワードは「楽しむ」ということ、楽しくなかったらやっていけないですよ。

その「楽しむ」ということを第1に考えて作業を続けています。まず、これを、自己紹介させていただきたいと思います。

林

ありがとうございました。「楽しくなければ、まちづくりはない」というか、そういう主張ですね。

では、次には和田さん、お願いをします。

和田

大変緊張しております。私は、今、大学院生ですけど、今、多摩美術大学の大学院のグラフィックデザイン領域というところに在籍しております、そこでは環境グラフィックスという都市やまちに関するグラフィックデザイン、グラフィックデザインと言うと、そうですね、まちで見かけるポスターだとか、映像ですとか、そういう視覚的なデザインというところを研究しているのですが、学部時代は同じ多摩美術大学の環境デザイン学科というところで、建築やインテリアやランドスケープの勉強をしていました。



もともとグラフィックデザインにも興味があったので、今まで学部時代に勉強したものと、グラフィックデザインとの関わりというものに興味が出てきて、思い切って

グラフィックデザイン学科というところに移りまして、そこで、今現在担当していただいている先生について、今勉強しているのですが、そこでは都市景観だとかまちづくりだとかということに関するグラフィックデザイナーが、デザイナーが一体どういうことができるのかということの研究している、そういう領域に今、います。

学部時代は、都市計画だとかまちづくりとかに関する課題もあったのですが、それはもう学生の「ここに建物を建てて」だとか何か、「こういうふうにしたら格好がいい」だとか、そういうようなノリというか、感じでやっていたのですが、やはりいざ大学院生になって、実際に八王子市で言うと、都市景観セミナーだとか、そういう実際のリアルな、そういうまちづくりの場というところに関わらせていただく機会が多くなりまして、そういうところに出ていくと、やはりリアルなまちづくり、人と人がつながっているというか、そういうリアルな場にいられるということはすごく貴重でして、自分が実際にまちづくりだとか、そういうことに関わっているのだなという手応えを感じるというすごく貴重な体験を今、させていただいております。今回のこの場も、本当にそうだと思いますし、まだまだ勉強をしている途中な

んですが、このような席で話をさせていただくということですのでごく緊張をしているのですが、よろしくお願ひいたします。

林

どうもありがとうございました。何かあれですね、話すのもいいけど、私はこんなふうなことが好きですと、こう絵に書いたりしながら皆さんに自己紹介ができるそういう仕掛けをしておけばよかったですね。

それでは、市長さんにはまた、先ほど冒頭のご挨拶がありました、条例その他いろいろやってこられたことを、少しお話をいただければと思います。

市長

私は、改めて自己紹介をするまでもないと思うのですが、私は、30代の前半で市議会議員に就任をして、市議会、それから都議会、そして平成12年に市長に就任をさせていただきました。ですから、今年は8年目ということになるわけでございます。

私は、就任した当時は、まだやはり都市基盤整備というのが八王子はおくれているなということを感じたのです。先ほど、ちょっと下水道、19年度、100%終わりますというご報告をしましたが、下水道もまだでしたし、特に南北間の道路の渋滞というようなものも大変激しかった。やらなければならないことがたくさんある。ただ、八王子というのはやはりポテンシャルと言いますか、可能性ですね、これは非常に高いまちだなということは私は強く感じておりました。ただ、このポテンシャルを十分に生かしていないのではないかなと、そういう気も同時にしたわけです。

特に、大学とかが21ありますけれども、学生さんも11万人からいる。私は大学の先生方とか、あるいは学生さんというのはまさに、お隣にもいらっしゃいますけれども、本市の、よそにはない知的財産だ、知的資源だといったらちょっと失礼ですかね、いずれにしても知的財産ですよ。これをもっと生かしたまちづくりができるのではないかなというような。

それからまた、交通の利便性というものもあるわけですから、そういった点もあわせて、もっとやはりやれることがあるのではないかなと、それが私は就任した当時の感じでございます、そういう視点からまちづくりに取り組んでまいりました。

特に、いい点というのはやっぱりたくさんありまして、例えば、八王子は緑が多いですね。毎年、市民の皆さんを対象に世論調査をやっていますが、その中にいろいろな項目がありますが、「定住意向」という調査をさせていただいています。これは、「これからも八王子に住み続けたいですか」と、こういうことです。そういう問いかけに対して、「積極的に」と、それから「今のところ、これからも」というものも含めると90%の方が、これからも八王子に住み続けたいと言っていたようになります。

毎年、この数字は上がっていますから、これは大変ありがたいことだと、

我々が一生懸命に努力をしていることを、市民の皆様も理解をしてくれているのだなあというふうに解釈をしています。

その中で、「では、何が一番の理由か、何が一番理由として八王子に住み続けたいのか」、やはり第1位は圧倒的に「自然環境がいい」ということです。緑が多くて、自然環境がいい。これは60%になります。ですから、これはもう最大の理由ですね。これが、やはりよそのまちにはない八王子の大きな利点だろうというふうに思っております。

ただ、先ほど、みなみ野のお話もされましたけれども、多摩ニュータウンもそうですし、みなみ野もそうですけれども、あるいはまたこの近辺でも、そんなに大規模なものでもなくても開発はどんどん進んでいますよね。周辺部には緑はたくさんあります。高尾山を始め国定公園もございまして、40%強がもう緑ですから、言うならば山岳ですから、ですから自然公園も含めて周辺には緑がたくさんあります。でも、開発ができるような、開発をしたくなるような業者の方々がおられる中心市街地に近いところの崖線と言いますか、斜面緑地とよく言うのですが、そういうところもこれから開発が今、どんどん進んでいるわけです。ここらの辺の緑というのは、やはり残さなければいけないのではないかと、というようなことから、今、できるならばこれ

条例をつくりました。でも、やはり限界があるのです。どうしても相続の時に、これは手放さないと相続税が払えないというようなケースもたくさんあるわけで、そういう時にはどうしてもやはりこれは売られてしまうのです。

ですから、それだったならば、それをいわゆる公有地化しようではないか、公有化しようではないかという取り組みをしまして、今、財政的にはまだまだ厳しいわけですが、一昨年になりますか、「みどり市民債」というものを発行しました。10億円の「みどり市民債」を発行したのですけれども、その時に私は、どのくらい応募していただけるかなと思ったのですけれども、実は、87億円の応募がございました。8.7倍です。これは驚きました。で、抽選だったのですけれども、結局、外れた方々からお寄せいただいた意見というのは、「この市街地の緑というものを残すためのこういう施策に、我々も参加ができるということに意義を感じた。だから応募をしたのだ。次はいつやりますか」、そういう声をたくさんいただきまして、非常に勇気づけられました。

私は、今の市民の皆さんよりも次世代の市民の皆さんに「あ、先輩たちはいいことをやってくれたなあ」という評価をしていただきたいと思ったのですけれども、今の市民の皆さんに高い評価をしていただいて、そして賛同していただいた、このことは大変嬉しく思いましたし、また、先ほどもちょっとチェロのお話をしましたけれども、やはり「市民力」ですね。市民の皆さん

んの地域を思う気持ち、これを大切にしながら、やはりこれからまちづくりをしていかなければいけない、そんな思いで今、取り組ませていただいております。

林

はい、ありがとうございました。

それでは、皆さん、お聞きになりつつ、最後の30分ぐらいはできればいろいろ質疑を、皆さんと対話ができるといいというふうに思っていますので、「よし、こういうことを聞いてみよう」というものをそろそろ考えながら聞いていただけるとありがたいのですが、今、3人の皆さんからそれぞれの思いで、まちに関わっているということを伺いました。それに対して市長さんも、いろいろな試みをやられながら、「市民力」という市民の皆さんの力がすばらしいというふうに言われました。

まちづくりも、いろいろなアプローチというか、迫り方というか、取り組み方がありますね。皆さんも日常、毎日の生活の中で一つずつ、小さいことだけど、まちづくりに関わっていくというそういう経験をお持ちだと思います。そういう身近な、あるいは毎日の思いですね、そういう思いをどのように一つずつ育てていくか、「まちづくりの思いを育てる、地域で育てる」、その辺のところを少し議論していけるといいなと思います。

その一番大切なことは、こういうことが大切なのではないか。さっき「みどりの市民債」、10億円は大変だと思ったら、実は皆さんの申し込みははるかに8倍、9倍もあったということですから、皆さんの思いがどう表現されるか、それが広がっていくことによって、本当に緑というのはこんなに大切に思っているのだということがだれにもわかる。これが、小さな思いが次第次第に広がっていく、次第次第に広がって、それが皆さんの思いということはそれがパブリックですね、「公」ですね、公共の公、「公」になっていくというそういうことなのだと思うのです。ですから、ご自分で、こういうことが大切なのではないかと考えていることは自分だけのことでなくて、何らかの響き合いでそれが広がっていくという、そのことで、実はそういうことを思っている人々はたくさんいるのだということも自分にもわかってきて、勇気づけられるというそのあたりが、とても大切なのではないかとと思うのです。

いかがでしょう。どなたからでも結構ですが、必ずしも前の順番ではなくても、それこそみなみ野自然塾はいろいろとそういう思いでいっぱいだったのではないかとと思うのですけれど。

荒 井

何か、ふられたようなので、自分で手を挙げてしまったのですが……。

環境問題のキーワードというと、生物の多様性と、健全な生態系の維持だと難しいことを言うのですけれども、よく考えてみたら、まちに暮らす人というのはいろいろな人が住んでいるのですよね。年齢も違うし、それぞれが持っている価値観も違うし、ライフスタイルも違うし趣味も違う。

例えばみなみ野自然塾は大体150名ぐらいの会員、塾生がいるのですけれども、その人たちだって、何で自然塾に入っているかといったら、てんでばらなんですね。ある人は、「草刈りおじさん」と呼ばれているのですけれども、笹を刈るのが大好き、エンジン付きの草刈機で、とにかくひたすら笹を刈って、その爽快感が何ともたまらない。「自分は、何か環境問題で偉そうに何かをやっているのではなくて、とにかくこのきれいにした後の光景がとても和やかでいいのだ」と言うのですね。

かといえば、自分は野菜をつくってみたい、野菜をみんなで一緒につくってみたい。でも大根をつくりたい人もいれば、ニンジンをつくりたい人もいるし、トウモロコシをつくりたい人もいるし、何をつくるかも結構大変ですよ。それから、「お米をつくりましょう」、お米のつくり方も地元伝わっているつくり方もあるのですが、いろいろなつくり方があるのですよね。そうすると、自然塾に集まってきた人たちが、やはり非常に多様だと、「自然塾」という枠の中でも多様な価値観がある。

私は、運営委員長という役割をさせていただいているのですけれども、その一人一人が際立って個性が発揮されて、本当に楽しんで活動するにはどうしたらいいのかなというコーディネーター役が、私の役割だというふうに思っていますね。

さっき、「響き合わせて」というふうに林さんがおっしゃったのですけれども、例えばオーケストラの楽器というのは非常に個性的で、いろいろな楽器があって、その音が一つ一つ際立って、一本立ちしていて、でもそれがハーモニーとなって響き合うことによって素晴らしい音楽になっている。だから、そういうまちづくりができないのかなというのが、私の一つの夢なんです。ただ、自然塾でもスタッフのメンバーが20人ぐらいいるのですが、ここで活動の中身を決めていくのですが、結構激論になるのです。感情むき出しで、言い合いになってしまうことだって時にはあるのですけれども、でも僕は、それは大事なことだと。やはり本音でみんながしゃべる。そこでけんか別れをしない工夫をしなければいけないですね。で、その一人一人の意見をみんなでちゃんと聞いて、そしてその中で共通の土俵をつくって、そしてどうしていくかということ話し合っ生み出していく。

そういう意味では、いろいろな「出会いと対話」、対話のダイナミズムみたいなものをどうつくり出していくかということがとっても大事な。それをオーケストラのようにどう響き合わせていくのか。だから、環境問題のキーワードの「生物の多様性と健全な生態系」は実は私たち、まちに暮らす人たちの多様性、それがまちづくり推進条例の前文にも書かれていますね、そのことをどういうふうにしたら実現できていくのかな。

それから私たちは、一つの営みです、「環境、自然」をキーにした。音楽の

集まりもあるかもしれないし、子育ての集まりもあるかもしれないし、自治会の集まりもあるかもしれないし、商店街の集まりもあるかもしれないし、そういういろいろな輪が重ね合っていくようなことができればいいのではないかな。

で、今、みなみ野では生活デザインセンターというNPO法人とか、都市機構の方々、それから八王子市の行政、市役所にお勤めの方々がみずから参加して、一緒に審議して、参加して下さってできているそういうネットワークを今、作りつつあるのですね。そういうものも非常に大事なまちづくりのものなのではないかな。だから、一つ一つの活動がタコつぼ的に、自己完結的にならずに、本当に緩やかにつながり合っていけるような輪を少しずつつくっていききたいなど。

それから、僕は学校の教師なのであれなのですが、学校の教師って、結構閉鎖的なんですよ。自分で言うのもあれなんですけれども。で、私も地域の学校に行くのですけれども、皆さん苦勞なさっていて、先生方、大変なんですけれども、やはり地域と学校の結びつきを学校側から考えるのではなくて、地域の住民が学校の営みを考えていきたいというふうに思っています。

林

はい、ありがとうございました。

昔は多様な考えというか、さまざまな考えがあるとまとまらないのではないかと、そういうふうにすぐみんなは心配したのですね。何かみんな同じことを考えていないといけないのではないかと。だけれども最近は、今、荒井さんがおっしゃったみたいに、実は非常に多様な考え方をを持った人たちが集まっているからこそ楽しい、ユニークなまちができてくるのではないかと、そういう考え方になってきたのですね。

その根っこには何が大切かという、今、言われたキーワードで言うと「出会いと対話」というふうに言われましたが、さまざまな違う人たちが出会って対話をするというそういう機会が豊富なほど、いろいろな可能性が生まれてくるのだという、そういうことがまちづくりの中でだんだんわかってきた。これは、先ほど冒頭に申し上げたように市民自身がまちづくりということを出し出して始めたわけですから、市民自身が今まで、「みんな同じ考えでない」とまずいのではないかと、思っていたのは、実はそうではないのだということを見つけて、そういうことを実際に対話の中で積み重ねるということをやってきたということなんですね。

実は、この辺が「市民力」の一番の根っこだと思うのです。そこら辺を今、お話しただいたというふうに思いました。

次はいかがですか。関谷さん、何か。

関 谷

先ほどちょっとお話をしました小田野中央公園というところで、参加をさせていただいているということで、ちょっとお話をさせていただきたいので

すが、やはり最初は地域の住民の方、あるいは行政の方、なかなか意見も考え方もどうも違うようで、行政としては、行政の事業を推進したいという流れもあるし、行政としての立場を主張する。また、住民はどちらかと言うと個人的に近い要望をする、あるいは行政に対するクレームを言うというような対話が少し続いてきたと思います。

その中で、実は私、八王子福祉園という恩方にある東京都の大きな介護施設ですが、そちらで「夕焼けの里 地域福祉フォーラム」というのをもう6、7年前からずっとやっています、私は実はその実行委員長という、まあ名前だけなんですけど、やっている中で、その福祉園の事務局の方が、地域の自治会の方と非常に積極的にコンタクトをとって、やはり自治会で中心となっている方と対話をずっと繰り返して、信頼関係を築き上げてきたという経緯がございました。それがあったものですから、そのフォーラムもそこに参加するという形で、ある程度第三者的な形での参加をさせていただいた。その中で、調整と言いますか、一緒に話をしながらだんだんやっていく中で、考え方が違うという話を先ほどしましたけど、だんだん考えが同じになってくる。共通することが生まれてくる、ということが、だんだん生まれてきます。

で、その会話の中で激論を交わしてやるということだけではなくて、言っていることが、きちんとしたことを、その場で話をする中で共通の理解がだんだんできてくるのです。その中で、いろいろなところを見学に行く、川沿いに河津桜を見るというようなプロジェクトで河津まで一緒に行って、それを見学するというのも同じ体験をする。あるいは、ワークショップで公園づくりをしているという三鷹の丸池という例のところと一緒に体験していくということを繰り返す。また、いろいろな勉強を繰り返す。世田谷の羽根木公園のプレーパークが、こちらの予算につきましたけれども、いろいろなところと一緒に行って体験をする中で、だんだん共通項が出てくる。それは住民の方、公園課の方も一緒に行きました。

そうすると、黙っていてもそれぞれがそれぞれの立場でできることを展開するようになってきました。行政の立場でできることを行政の中で言うし、あるいは何か、例えば東京都に話を持ちかけようというときに、川が東京都の管轄ですから、その時はむしろ住民から言った方がいいということで、むしろ同じ目的に向かって、違う立場がスクラムを組んで同じ目的に向かって動くということが生まれ始めました。

そして、さらに一つの基本的なコンセプトを住民参加で自然を守りながら、手づくりのこういうものをつくらうというコンセプトのもとに、地域の小・中学校も参加していただきまして、最初はおっかなびっくりで先生も参加していく中でだんだんはまりまして、中学校では例えば公園でボールで遊んで

はいけないということになっているのを、やはり住民の方からもやはりボール遊び、いいのではないかということになりまして、ではどうするかというときに中学校の野球部、サッカー部がそこでシミュレーションをして、どうボールが飛ぶかということを検索し、また、生徒会で公園づくりのルールづくりというのを生徒会がつくりまして、それを提案するという、小学生は総合学習で公園の模型をつくったりとか、発表会をするなどをして遊具づくりをするというような展開にどんどん行く。子どもたちが参加することで、お年寄りと言いますか、大人も活気づいているという状況があります。ちょっと、紹介までです。

林 ありがとうございました。

今のお話の中で、最初、それぞれお役所と住民と、それから住民一人一人の立場というか、言葉というか、なかなかお互いに通じないときがあるというようなことを言われたように思います。意外にそれぞれの体験の幅、専門の仕事のこと、あるいは何か地域の関わりによって言葉が違うのですよね。だから、初めからあって、全部物事は通じるのではないので、そこでさっき荒井さんが言われた「対話」というのは非常に大切だと思うのです。その言葉が、「そうか、この人はこういう意味でこの言葉を言っているのだ」というのがだんだんわかってくるというので、一つ共有できるものが生まれる。言葉ですね。

それからもう一つは、今のお話の中では丸池とかいろいろなところに行かれて、一緒に体験をする、あるいは何かを一緒にやることで体験をする。だから、「体験」というのが一つ、重要なポイントですね。

それと、その体験というのから公園のボール遊びというふうなことを巡って、生徒会がルールをつくっていると言われましたか。

関 谷 そうですね、生徒会がつくりました。

林 あるいは、小学生が模型をつくるとか。

関 谷 公園にどういう遊び、遊具があるか、あるいはどういう遊びをしたいかということ、最初は作文をして、次に絵を書いて、それをもとに模型をつくって発表会をやって提案するというので。

林 というような、そういうアクションになっていますね。それも大変なものを一気に業者に発注してつくるなどというのではなくて、子どもたちが模型をつくる、その前には絵を書いて、こんなのどうだろうというふうにするという、まあ本当に日常的にできることからだんだん発展させる。

関 谷 それで、それをもとに、実は公園課の職員の方も、我々も含めてその模型、子どもたちの提案をどうやって実現するかというのを必死に考えつつ、できることを提案しているところで、そこにボーイスカウトさんなんかに参加していただいています。

林

なるほど。というふうにして、どなたかが、だれかが「この公園でボール遊びができるようになったらいいよね、やっぱり」と、それは前々からみんながそういうことを思っている気持ちが、あちこちにあったのだと思うのです。それを、一つパッとそういう言葉が出た時に、それに対して少しずつ「じゃあ、そのことを考えてみよう」というふうに育てていくというそれがさっきの、何かひとりの思いが次第次第に響き合う、広がりにっていく。広がりのある、小さな交から広がりのある交という言い方もするのですが、そういう世界が、これが本当にまちづくりらしいなと、そういうことだと思いますね。

いかがですか。市長さんが乗り出しそうになっていますが、和田さんなんか負けずに一言、どうですか。

どうぞ、どうぞ、先にやりましょう。

市長

今、小田野中央公園、手づくり公園のお話がありましたけれども、すばらしい話だと思います。八王子でも事実上、初めての取り組みですからね。

八王子って、やはりいいところというのは多様性ですよ。いろいろな顔を持っているではないですか。東の方へ行くと、例えばニュータウンの方では建物がヨーロッパの建物みたいな、ヨーロッパの方は中高層建物、今、ちょっと問題が上ったりしているのですけどね、そんな建物があったり、アウトレットの店があったりとか、そういうところもあったり、それから歴史ある創業慶応何年だとか、文久何年だとか、そういうところを売りにするような、看板にできるような歴史ある中心商店街があったり、それから大手の大企業の工場が集積をしている地域があったり、あるいはまた良好な住宅地があったり、それからまた西の方へ行くと、よく私、言うのですが、ヤマメの養殖をしているようなまさに自然豊かな場所もあるわけですね。

ですから、いろいろな顔を持っているこの八王子のそれぞれの地域の特色を生かして、やっぱりまちづくりをしていくということが大事なことだと思うのです。ですから、例えば住宅地であっても、代が古いところは30年もたっているところがありますから、そうすると入れ代わったり、代が変わったりとかで、そのままいい、良好な住環境というものは変えられてしまうというようなこともあるわけですよ。そういったことをやっぱりみんなで、時にはかんかんがくがく話合いもしながら、それで、ではこれからこのまちを、いい環境を保持していくにはどうすればいいのかということ。

あるいは、商店街なら商店街で、もうちょっと八王子の商店街、明るい商店街にならないのだろうかとか、もうちょっと元気を出せないのだろうかというようなところからいろいろみんなで話合いをして、ルールをつくって、そして例えばいわゆるよろいのようなシャッターではなくて、中が、ショーウィンドーが見えるようなそういうシャッターにして、そしてショーウィン

ドーの明かりは何時までつけておくとか、一晩中つけておくとか、そういった工夫をすることによって、連担性というのができるではないですか。

あるいは、元大丸跡地などは今、マンションになってしまいましたが、中心市街地はマンションが幾つも建っていますよね。人が増えているんですよ。人が増えているんですけれども、ややもすると、そこで商店街が分断をされてしまうということもあるから、ですから、マンションをつくる場合でも1階には商店を入れてくれと、そういったルールづくりをするというような、そういうようなことをやはり考えて行く必要があるわけですよ。

で、その基本となるのは、まちづくりの憲法とも言うべきものがあるのですね。これが都市計画マスタープランというもの、これはどこのまちでもつくらなければいけないわけで、あるわけですが、今、八王子の都市計画マスタープランは平成15年の3月につくったものなんですよ。それが柱になるわけですが、それから後、もっとやっぱり具体的なルールづくりをしようというので、今度は地区まちづくり推進条例というのが制定されたのです。今、1月から、今月からそれが施行されたのですが、これは今まで12月1日の広報でPRをしたり、それからホームページでPRをしたりとかいろいろやっているのですが、なかなか簡単にわかっただけじゃないというか、そういうところもあるのですが、これはそんなに難しいことではなくて、皆さんがやっぱりいろいろ、まちをどういうふうにしていこうかと、今、ちょっと商店街の例なども言いましたけれども、住宅街でもあるわけですよ。住宅街を、では代が変わって、そこを売ってしまって集合住宅をつくられてしまうということもあるわけですね。そうすると、もう雰囲気は全く変わってしまいますから、集合住宅を絶対につくってはいけないというそういうルールまではできないのですね。これは法律に違反をすることになるから。ですけれども、この条例によって、例えば高さを4階ぐらいまでですね、12メートルぐらいまでに抑えろとか、それから民法では50センチですか、隣と、それを例えば3メートル、隣地とは離して建てるとか、それからその間には植栽をしろとか、あるいはブロック塀ではなくて生け垣にしろとか、そういったことを決められるんですよ。それを、この地区まちづくり推進条例というのをつくったわけですが、これをぜひ市民の皆さんによく理解をしていただいて、十分に活用していただくことによって、私はやっぱり「八王子に来てよかったな」と、よそから来られた方もそう思っただけのようなまちができるのではないかなと、そんなふうにいるのです。もし、時間的にあれば、後ほどまちづくり条例の内容をわかりやすく、手順等についてもちょっとお話をさせていただいてもいいなあと思っております。

林

ありがとうございました。

まちづくり条例は、お役所が条例をつくって、それで後、計画をつくってとか、そういうことではなくて、条例は皆さんがまちづくりを何かやろう、やりたいなと思ったときに、それを提案していけるような仕掛けになっている。ですから、小田野の話がありましたけど、そういうのも小さなまちづくりの始まりですよ。そういうことが少しずつ広がりを持ってくるときに、この条例がまたそれを後ろからバックアップするような、そういうようなことも可能かもしれないというふうに考えていただいて、条例そのものは法律の文章みたいになっているので、これを読み解いて、全部理解して何かをやるというのはちょっと大変ですから、お役所の職員の方、いろいろ市民の皆さんと一緒に活動をしたりするというようなことは、どうやら八王子市では市長さんが奨励しておられるようなそういうお話を先ほどは伺ったのですが、そうだとすると、そういう専門の人に、必要な場合はこの条例はこういうことになっていますというもの、こんなことが可能ですというの聞きながら、自分たちの日常のところから少しずつまちづくりを育てる、そんなふうになっていくと一番いいのではないかなというふうに思います。

和田さん、さっき子どもが絵を書いて、それから模型にして、それから公園がどうなってしまったとかというお話もあったでしょう。和田さんみたいにデザインができる人って、すごく僕なんかまちづくりでは大切だなあというふうに思うし、あるいは一方では、デザインの目から見ると、このまちはこういうところがいいんだよね、ここを何とか大切にしたいねとか、ここはもうちょっと何とかなっただ方がいいのではないかといろいろ考えることがあると思うのです。何でも結構ですが、少しいかがでしょう。

和田

そうですね、デザインをやる立場からということでしたが、今、市長さんの話にもあったように、例えば商店街の活性化というか、そういうことになると、大変そういう事業の中で、そういう課題というか、そういうことも出てきたので、そういう場合にこういう絵を、このまちにはこういう絵がっているのではないかとか、そういうことでやっているということもあります。やっぱり、そういう終わってしまった、営業が終了してしまった後のまちというのを、どのようにそういう視覚的な演出でどのようににぎわいをもたらすかと、そういうところをデザインのポイントにして考えたりもします。

林

シアトルというまちがありますが、僕はたまたまあそこの住宅地を歩いていたら、そのシャッターのところにかわいらしい絵が書いてあるというだけではなくて、道の上に電気のでっかい、トランスみたいなものが歩道のところに置いてあるのですよ。それに、何かかわいらしい絵が書いてあったり、それから、ゴミを入れるボックスがあつたりしますね。これも何か書いてあるのですよ。それから、バス停のちょっと小さな場所に、これまた書いてある。で、おもしろいなあと思って聞いたら、これは地区の学校の子どもたち

が一生懸命にそれをやっているのだというのがあったり、それから、子どものために一生懸命、小さな空き地でいろいろな活動をサポートをしていたおじさんが亡くなってしまって、そのことを何か思い出の場所として残したいと、それで高校の学生さんたちがブリキはチョキチョキ切れますよね、あれは柔らかいから。それでいろいろな、鳥だの何だのふしぎな形のものをつくって、それを木の棒の上に載せて、それをその空き地の中に立てていくとか、そんなものです。「メモリアルパーク」、「パーク」というのはちょっとオーバーだけど小さな広場ができてしまったとか、何かいろいろデザインの学校があるとおもしろいことが起こるのではないかと。

和田　そうですね。やはりまちを見ていくと、もうたくさん、本当に考えようによってはもう本当にたくさんデザインが施せるような場所というのはあるのですが、全部プラスで加えていくというのも、加減がというところがあって、それがやっぱりプロのデザイナーが見極めなければいけないところだとは思いますが、それと、今、おっしゃったように地域にそういうデザインとか美術とか、そういうことを学んでいる学生とかというのがいるので、八王子なんかは特に学生の数も多いと、先ほどおっしゃっていたのですが、物づくりをする大学も結構多い方だとは思いますが、やっぱりまちをデザインだとか、そういう美術だとか、そういうことで活気づけていくのであれば、若者の参加ということも含めて、そういう学生とかがもっと参加していくことがすごく大切だと思います。

私の大学だとかも、本当に、年に1回、学園祭というか、芸術祭というものがあるのですが、その時はもう本当にみんな大騒ぎをして、本当に八王子市というか、地域に逆にすごく迷惑をかけているくらい本当に大騒ぎをしてしまって、苦情やら何やらという本当にすごいことになってしまうのですが、そのエネルギーをやっぱり、学生たちのそういうお祭りだとかそういうものをプロデュースする力というのは結構あると思うので、そういうものをまちづくりとか地域のだとか、そういうことにどうしたら生かせるのだろうか、そういうところは私たち学生自身で考えていけないといけないなあと思います。

林　　関谷さん、さっき、何かコンテストみたいな話があったでしょう。いろいろな今みたいなことを思った人たちが提案をして、こういうのをやりたいのだというコンテストみたいなものはあるのですか。

関谷　それは、実は「まちかど・まちなみコンテスト」ということで、基本的にはそういう自分のまちの中の身近なものを紹介してもらおうということで参加してもらっていますが、その中でも自由に提案するというのも自由にできるようには考えてはいますが。

林　　荒井さんは、活動の中で何かそういうみんなに「やりたいことコンテスト」

ではないけれど、提案は.....。

荒 井

「コンテスト」ではないのですが、自然塾の活動自身が多分、自分のやりたいことを主張してもらっています。例えば、竹を切るのだけど、竹の伐採の保全活動をやりましょうではつまらないでしょうね。だから、「竹を切って、秘密基地をつくって、子どもたちと遊ぼうな」と。お父さんたちは「そう言えば、昔、木の上に何かつくったから、隠れ家をつくったから、そういうものをつくってみたいんだけど、どうするかな」。だから、何かそういういろいろなアイデアとか、それから市がベニヤ8枚を使って、8畳分ぐらいですか、堆肥置場をつくってくれたんですよ。そうすると、それに子どもたちが、4枚ありますので、四季それぞれの、僕たちが活動している土地跡公園の風景を書いてくれるんですね。すると、ワンポイントでもとっても公園の中が和むんですよ。

だから、そういういろんなことがあったり、または生活デザインセンターの家政大学の先生たちが、自然塾がハーブを育てる。そのハーブで大きい匂い袋をつくってみて、そういうのをまちのいろいろな場所に置いていったらいいんじゃないかということをやったりとか、いろいろな活動をしている輪がつながり合って、一緒にこう 僕は自然塾の中でもいろいろなアイデアを出していくのですけれども、そのほかの人たち、いろいろと話をしていくうちに、また新しいアイデアが出ていって、それがまちの全体の文化といひ過ぎなんですけれども、そういうものを醸し出していくというふうになるのではないかなと。

または、造形大学の学生さんがつくった作品がいっぱいあるのだそうで、それがまちのあちこちに無料で、運ぶ代金はかかるので、それは持ちますから、どうぞもらってくださいといって、あちこち公園の中に飾られているとか、駅前に町内会とか大学生とかいろいろな人がやっている光のイルミネーションですかね、ああいうのを12月から1月にやられるとか、いろいろなアイデアがたくさん出てくるのがとてもいいなあと思いますし、そういうふうにしてると、例えば栃谷戸公園って、みなみ野小学校の生徒が1年生から6年生まで600人ぐらいいるのですか、全員がそこで活動しているのですよ。自然塾がスタジオをつくってあげて、そこで田おこしをやったり、畑をやったり、雑木林の手入れをやったりしている、また観察をやっている。そうすると、彼らは絶対に公園を汚さないですよ。結構いかめしくなっちゃって、ちょっと悪びっているなとかというような中学生が突然近づいてきて、「荒井さん」とかと言って、「この前、ここで花火大会をやっていましたけれども、僕たちちゃんと始末しましたから、ご安心ください。ついでにゴミも拾っておきました」と言うんですよ。

やっぱり、自分たちが手入れをして、大切にしてきた場所はとても大事に

していくし、きれいにしていきたいなど。そういうところから、そういう子たちが今、大学生に、最初、10年前に小学生だった子がもう大学生になっていますので、またいろんな形でデザインをやっていく場合に、アイデアがありますと出してくれる。何かそういうまちの文化みたいなものをつくりたいなと思いますね。（「そうですね」と呼ぶ者あり）そういう意味ではとても何か魅力的なことをなさっているなと思うのですけどね。

林
市長

そうですね。市長さん、本当に「市民力」ですよ。

今、みなみ野のお話をずっとされておられますけれど、みなみ野は私は理想的なまちづくりをしていると思っているのですよ。これは我々の立場からもうそうですけれども、あそこをつくった、言うならば公団ですよ。公団でも今までの長い歴史の中で、今までの経験の集大成がみなみ野団地ではないですかね。私はそんな感じがしているのですよ。ですから、みなみ野自然塾は総理大臣賞か何かを受けましたよね。受賞しましたよね。やっぱりそのくらいに評価は高いのですよ。で、旧公団も当時の自然をそのままやっぱり残したりとか、そういう努力をしてくれているんですね。ですから、開発だけではなくして、しかも数は少ないですけど、昔からあそこにお住まいになっておられる方もおられるわけですよ。そういう方々が新しい住民の方々を積極的に受け入れて、溶け込んで、そしてまちづくりをしているんですね。そういう点も私はすばらしいというふうに思います。ですから、いろんな点で、ほかの地域でも参考になる点もありますね。私、みなみ野にちょいちょい行くのを楽しみにしているのですけれども、すばらしいですよ。

それから、さっき和田さんから学校のお話がいろいろありましたけれども、まさに大学は八王子の財産ですよ。いろんな面で今、協力していただいています。先日、まちづくりに何か提案をしてほしいというコンテストみたいなものをやったのですけれども、積極的に大変楽しい提案をしていただいています。そのために、随分研究されたんだろうなと頭の下がるようなそういういい提案をしていただいたり、それからやっぱり、多摩美の学生さんとか造形大の学生さんたちの、先生方も含めてですけれども、彫刻をまちに飾っていただいたりとか、そういうものも毎年やっていただいたり、それから建物をつくる時とかに「何か色彩とか、専門的に見てどうですか」と、そういう相談にも載っていただいたり、私、やっぱり財産だなという思いをして、積極的に今、活用させていただいていますし、産業振興の分野などでも今、大学、あるいは先生方ですね、学生さんも含めてですけれども、変わったところでは八王子の観光ビデオをつくったんですよ。これはいわゆる観光会社がつくるような、あるいはまた我々の行政の中の観光課がつくるような、今までのようなそういう内容では全くなくて、それで活躍をされる人を中心とした非常にユニークな、すばらしいものをつくっていただいたり、それを事

業で取り組んでいただいたんですよ。(「ああ、そうですか」と呼ぶ者あり) ええ、そういうふうにまさに大学は八王子の財産ですね。ありがたいことだと思っています。(「そうですか」と呼ぶ者あり)はい。

林

今、伺っていると何か、やはり昔はほとんどお役所が何でもかんでもやるという世界だったみたいですが、お役所も頑張るけども、今の大学も、あるいは学生さんも、それから地域の皆さんも、あるいはニュータウンの住民も、公園で関わりのある子どもからお年寄りまでそれぞれがそれぞれにいろいろな活動をして、自分たちのまちを楽しい、いろんな機会が一人一人にも得られるような、出会いの多い、対話のたくさんあるまちにしていくというそういうような、何と言うんですかね、これが本当にコミュニティーなんでしょうね。コミュニティーがここにしっかりと根づいていこうというそういう動きを、非常に日常の中で高めてきているのではないかなというように思うのですね。

そういうことと、今、条例の話で、今年の1月から始まったその仕組みはどんなふうに役割分担をして、何ができるのか。少し市長さんに解説をしていただきたい。

市長

今、それぞれいろいろな例がお話して出ましたけれども、そういったことをやっぱりルール化をして、それでほかの地域でもそういうことができるように、参考にして、まちづくりができるようなそういったルールをつくらうというのが、この地区まちづくり推進条例なんですね。

これの手順をちょっとお話をしますと、地域の皆さんがいろいろ、より暮らしやすいまちについての課題というものを話し合っただけの方針が決まりますね、「こういうまちづくりをしていこうじゃないか」と決まりましたら、そこで協議会というのをつくってもらいますよ。協議会を。それで、言うならば条例に沿った計画案を市の方に出していただくのです。市の方はその計画を受け取りまして、まちづくり審議会というのがあるのですが、まちづくり審議会に調査審議を、それが適切かどうかという調査審議を依頼するわけです。

審議会は、審議結果というものを意見として市に返すわけですよ。そうすると市は、今度はいただいた意見をもとに計画案を地区まちづくり計画というふうにして正式に認定をすると、こういうことになるわけです。こうお話をすると、手続が非常に煩雑じゃないかと、そんなお感じになる方もおられると思いますけれども、でもやっぱり生活の基盤となるこの大切な地域のまちづくりですし、時には自分の財産の使用を制限される、こういうこともあるわけですから、やはりこれは慎重でなければいけないのではないかなと、私はそう思っております。

いよいよ計画が実行段階になると、皆さん自身が計画した夢のあるまちに

向けて市民や事業者、そしてまた市が一体となって取り組むわけですね。ルールに沿った取り組みが始まるわけです。ですから、これに建築業者とか開発業者、関連をする、そこを開発しようとか、あるいは建築をしようとか、そういった業者も一緒になって、この制約を受けながらルールを守っていただくと、こういうことになるわけです。

ですから、一言でまとめるならば「地域の個性、特性というものを生かしたまちづくりを、地域で暮らす皆さんの発想で、そして皆さん自身が進めていくためのルール」、これが地区まちづくり推進条例なんですね。ですから、そう難しいことはないんですね。

そうすると、やっぱり地域の皆さんが自分たちのまちをこういうまちにしていこうということをルールづけするわけだから、ですから、やっぱり新しい方でもふるさと意識というのを、地域への愛着というのが高まると思うのです。

で、私はよく言うのですけれども、新しい市民の皆さんに住所を書くときだけ八王子市民でなくて、身も心も1日も早く八王子市民になっていただきたい、八王子、いっぱいいいところがありますしと、そういう歴史を知ってもらったり、八王子の固有の文化というものを知っていただくことも大切ですし、また、我々がそのことを知っていただくような努力をすることも必要なことだと思うのです。それで、言うならば自分たちでこの地域をつくったという意識があれば、私は必ず八王子に対するふるさと意識というものを持っていただけのではないかなと、そう実は思っているのです。

林

今、お話にあった手順は、このパンフレットの中の見開きのところに書いてあって、これを見ると何だかやっぱり固い感じがするぞとか、その次のページのところには計画の何か一定の条件というのが書いてあったり、支援するというようなことが何通りか書いてある。支援の方は、まちづくり組織をつくると、準備会の段階で年に20万円、お金を、経費の一部を助成しましょうとか、協議会ができれば50万円、原則3年まで助成しましょうとか、そういう話も書いてある。

しかし、何か難しそうだからどうしたらいいのだという、まちづくりの情報の提供もするし、アドバイザーの派遣というので関谷さんみたいな人だとか、あるいは声がかかったら荒井さんなんか、「いやいや、こういうことをやると楽しいですよ」とか、あるいは和田さんは、「こんなおもしろいデザインのアイデアがありますよ」と、こういうふうに応援に駆けつけてくれるといったような、そういうことのようなんですよ。

しかし、この手続ですって行って、最後に認定だとか告示だとか何かそこまで行くことが結構大変かもしれないから、まずは発意して準備会ぐらいでいろいろとまちづくりのことを考えるというのをやってみようという、そう

というような段階でも大歓迎ですよというそういう段階から応援しますという
…………。

市長 林さんね、まさに私どもの職員も一緒に参加をすることによって、地域でもまれるということ、これはすごくいい経験になりますし、価値観を共有するということは大事なことだと思いますから、今、私どもの職員はどんどんまちに出ていきますから、ですからそういう話が出て、そしてまだまとまらなくて、まとまりつつあると言いますか、そういうみんなで話し合いをしようという段階でも結構ですから声をかけていただければ、職員も一緒になって考えます。はい。

林 ということですから、ご遠慮なく市長さんのところに「ぜひお願いします」と、こういうふうに直接行かれてもいいし、あるいは手近なお役所のどなたかに「ちょっと、これどうするの」という話からでもいいんですよ。というようなことに、なっているようであります。

そろそろ、いろいろご質問等を受けつつ、またディスカッションを進められればと思うのですが、初めに、少しまとめてご質問を受けて、幾つかご質問の重なりあいがあれば、その重なっている、皆さん、聞きたいなあと思っていることが割と多そうだとこのところから、少しみんなで考えていくというディスカッションをしていくというようなこともできると思います。

差し当たり、ちょっと何か意見を言ってみたいと思っている方は、僕の方から余り光があってよく見えないので、市役所の方、サイドなどにおられれば見逃さずに、一体何人ぐらい、今そういう差し当たり質問をしてみたいという方がおられるか、ちょっと手を挙げてみてください。

手が上がったところを、ちょっと覚えて置いてください、どなたか。よろしいですか。もう一遍ちゃんと挙げていただけますか。大分挙がってきましたね。全員で挙げていただいてもいいのですけれども。

それでは、差し当たりお名前を言っていただいて、こんなことを少し考えたんだが、あるいは、こういうことを質問したいんだがというので、順繰りにまずそれを伺いましょうか。どうでしょう。はい、その方。

小松 中町の小松です。市長と会うたびに「オンリーワンのまちづくり」ということで、八王子の特徴、歴史とか文化を生かしたまちづくりをしようということ伺っています。私もその意見に大変賛成で、了解しています。今から、立川のようなデパートを誘致してもとても追いつく話ではありませんし、それもまた無理なことだと思いますので、八王子というのは非常に歴史のあるまちなんです。それで、私のまち、中町にも大変歴史のある花街というのがあるのです。

花街、ちょっと説明させていただきますと、400年ぐらいの歴史がありまして、徳川家康から5街道を制定した時代と、甲州街道で宿場町として八王子

が栄えたころから花街というのができてきたわけですね。それで、織物の発展とともに仲買人などが集まってどんどん発展していきまして、明治の初期には大体200名ぐらいの、今で言う芸者さんがいたそうです。それで、大変多くの置屋とかそういうのがてんでんばらばら、八王子のあちこちにあったそうですね。それを、大変多いので1カ所にまとめようということで今の中町、南町のところに一角の花街というのを作りまして、我々小さいときは芸者街と呼んでいましたのですが、そこに花街をつくったわけです

それで、一時焼け野原になったわけですが、戦後、織物の爆発的な復興とともに一時、多いときで250名ぐらいの芸者さんがいた。置屋が50軒で、料亭が50軒ぐらいあったと言いますから、非常に栄えていたわけです。

その後、織物の衰退とともに、どんどん花街も衰退して行って、今現在、一時もう芸者さんの数が1けたになって、これじゃあもうつぶれるということで、今、「黒塚に親しむ会」などというのができまして、芸者さんを支援したり、また我々の中町でもぜひ芸者さんをこれから全面的に応援していこうということで、お祭りの時には宵宮と言って、金曜日に夜宮があるのですが、このときに宵の宮の舞いというので踊っていただいたり、また、「にわか」といって、ちょっと聞き慣れない言葉かもしれませんが、徳川家康が入城する際に吉原の芸者さんが鐘や太鼓を即行によってお祝いしたというのが始まりだそうですね。その「にわか」というのを八王子の芸者衆も戦前からずっとやっておりまして、山車の後について「にわか山車」というのを引いてみんな回ったそうです。それを、今40年ぶりぐらいに復活させて、今「にわか山車」を中町の山車の後につけて中町では回っています。

それから、また……（「ちょっと手短に……、たくさんおありでしょうが……」と呼ぶ者あり）いろいろやっているんですね。ところが、限界がありまして、我々はいろいろな応援はできるのですが、肝心の花街が今もうほとんど虫食い状態で、ほとんど駐車場になってしまったりとか、ほかのいろいろないかがわしい店ができたりとか、あとは韓国の売り物ができたりとかして、ほとんど崩壊寸前なんですね。そこをどうにか食い止めるには、やはり我々だけの力だけではもう無理なんですね。それは市のやっぱり協力を得ないととてもこれは無理な話なので、そこで、理想的にはあそこはほとんど1人の人が持っているので、市が土地を買い上げて、そこにきちっと花街をつくってくればまた別なんですけど、それはとても無理な話だと思いますので、せめて黒塚をつくるときに補助金を市から出していただきたいというのが我々の希望なんです。

多分、みなみ野の方でも生け垣をつくるときには補助金は出ていると思うのですね。それで、歴史があるまちづくりというのを見ると、ほとんど補助金でその歴史を保っているわけですね、どこの古いまち、例えば「風の盆」

でお呼びした八尾のまちでも、八尾の風景を守るために補助金は出ていますし、いろいろなそういうまちで補助金が出ています。そういうことで、ぜひ中町の芸者衆、今、芸者衆と言うと、昔、悪いイメージでいろいろ体を売っていたとかそういうことがあるけれども、今は健全な芸で生きています。

それでまた2、3年前には、全国花街芸術祭というのが京都で行われるのですけれども、それにも八王子の代表として、東京の代表として出ていきまして、非常に皆さんから好評を得ているという事実もありますし、また、いろいろ今、踊りだけではなく、太鼓とか鼓とか笛とか、そういうものを大変練習しております。

それで、「風の盆」を呼んだときにも今回初めて芸者衆にも「風の盆」を踊っていただいて、大変好評を得ていますので、そういう芸者衆たちもいろいろ努力していますので、ぜひ市の方からも援助をしていただければと思います。

林 ありがとうございます。情熱いっぱいにとまらなくなってしまうよう
……………。

次には、はい。

青 木 めじろ台の青木でございます。現実に関今、起こっている問題で、今回のこの条例とも関係してくると思うのですが、実はめじろ台というところは昭和60年に地区計画、やはりこの市ということ、今回の条例と同じようなシステムで住民が集まってつくったわけです。けんけんごうごうとしまして、結局、まとまったことは、最後は「細々な家はいやだから、最低でも40坪の敷地以上はないところは家を建てさせないぞ」というような形で、街並みの景観だけは守ってきたのですが、そこで困ったことが最近起こりまして、実はあそこは京王線が通ってまして、京王線は下を通っていますから、その両脇は道になっておりまして、ずっと景観が非常にいいわけですね。それで、その先には高尾山が見えるということで、我々町民でなくても近隣の方が散歩道として愛して通っていただいているところでございますけれども、京王さんの方からその600メートル、約40メートルのほっとする広い空間のところに安全という形のこと、約1.8メートルで、路肩を入れると2メートル近いフェンスを両脇に600メートルつけると。今まで散歩道として愛して歩いていただいた方々から見ると、そこはそれがつけられると檻の中から景色を見るというような形になる。

長く話すとあれですが、今、私が言いたいのは景観とそういう、今度は京王さんとしてみたら、塀が高ければ高いほど安全性が高いわけですね。だから、何が言いたいかということ、景観と安全性の問題、それをどうとらえて調整していくかということで、今実際に困っておりますので、何か言いお知恵がありましたらよろしくお願ひしたいということでございます。

林 わかりました。

それでは、そのほかに。こちらの前の方で、一等初めから紙が上がっていましたけれど。はい、お待たせしました。

中 野 子安一丁目の中野と申します。先ほどからお話を聞いて、環境問題、緑、私も大賛成です。ただ、私は視野が狭くて申しわけないのですが、皆さん、八王子の駅を大体通っていると思うのですが、最近、国鉄からJRになってからものすごく横暴だと思うのです。金もうけ一本に走って、よく「バリアフリー」という言葉を使っていますが、あそこが一番「バリア」なんですね。目の悪い方、足の悪い方、市長さんのおかげで、南口にもエスカレーターができました。これは喜んでいるのですが、最近、店をどんどんあの中に入れてしまって、それから全くここで変えたのですよね。何か緑の窓口だとか何とかというのを前にパアッと出してしまったから、すごく歩きにくいのですよ。

それで、みんな今、携帯を持って話しながら歩いているのです。本当に障害者の方は危ないのです。あれも市から、ちょっとJRも横暴過ぎる。買い物系に走り過ぎていると思うのです。店を随分あそこに出しているのです。切符を買って改札に行くのに、ぶつかるのですよ。で、若い人はみんな今、若い人でない、年寄りも携帯を持っていますけれどもね、話しながら歩いているのです。あれを違反か何かにしてもらいたいのですよ。運転中の携帯は違反だけど、ああいう混雑したところで、携帯で話しながら歩いたら、本当にけがします。そういうことも市長さん、ぜひ考えていただきたい。よろしくお願いします。

林 はい、どうもありがとうございました。

そのほか、こっちの方も何かいろいろ挙がった、そのすぐ後ろでおありですね。

久 保 田 北の台の久保田と申します。今まで環境問題とか自然保護、これは非常に大事なことですけれども、先ほど、市長さんがおっしゃったように八王子の例えばJRの駅前ですね。いつもどうしても立川と比較するのですけれども、ちょっと何となく違和感を感じるということなんです。

これは例えばの話なんですけれども、今から20数年前にアメリカのポートランドというまちに仕事で行ってました。その時に、今の森ビルの社長さんと、それとお兄さんもいらっしゃったのですが、別々なときに視察団で、アメリカの複合住宅はどうなっているのだろうかという行脚をされたんですね。恐らくその結果が今の六本木ヒルズとかということになっているのではないかと思うのですが、複合住宅というのは今、一般的かもわかりませんが、やはり市街地で、駅前に住みたいという方は多いと思うのですよね。ですから、駅前を、例えば都市条例、条例か何かをつくって、できれば複合

住宅、というのは上が住むところで、下が店とかオフィスと、アメリカの場合には地域によってそれは条例で厳しく規制しているところがあるのですね。それを、そういう形で申請しないと認めないということがありますので、その辺も考えていただければ、駅前に大勢の人が住めるようになって、まちが活性化するのではないかなという感じはするのです。それだけです。

林

はい、ありがとうございました。

市長さんがおられるものだから、つい、もっぱら市役所に注文をつけようという………（笑声）ことが、そっちに傾きがちですが、さっきの小さい思いがだんだん広がりを持っていくように、市民同士で少しこういうこともやったらいいんじゃないかと思っているのだけれども、この際ちょっとそういう話もしたいというような方はおられるのではないですか。どうですか、手が挙がっていますが、その辺。

野 倉

めじろ台の野倉と申します。何かまちづくりで具体的ということですが、私の話は一つも具体的ではありません。抽象的でご勘弁願いたいのですが、まわりの方、全部入れまして、その時々体験の自分の目いっぱい気持ちわかります。が、しかし、こういう話、私事で申しわけないのですが、私の場合、余りおこらなかつたです。おこらなかつたけれども、たまにこっぴどくやりました。その時は、山へ行って下刈りをしてこいということです。小さい、まだ6年生ぐらいのときですから、行くだけでもこわいぐらい。それでも行かなければしょうがないので行きましたけれども、腹はぼんやりしていても、山では減ります。それから、確かに山師と言いましたが、二食弁当とこれは必要です。わかります。その時に、一番思うことは、だれも相談なし、ないところに、自分の体験、これくらい最高の体験はないと思うのです。ですから、中野さんもいろいろご体験をなすって、確かにそうだと思いいになりますけれども、前後が必ずある、動かさない歴史もあるでしょう。あるでしょうが、それも計算と言いますか、考え、後ろの計算をして、それで発表してください。それで、コミュニケーションをまとめてくださいということをお願いします。具体的でなくて申しわけないです。よろしくどうぞ。

林

コミュニケーションを一生懸命に考えようということ。

あと、1人、2人、あちらの上の方のあの辺で手を挙げておられる方、いかがですか。

深 沢

僕は、千人町の深沢と申しますが、大分前のことですが、今から30年ぐらい前の話ですけれども、八王子が 西八王子の周辺は機屋さんが多かったのです。機屋さんが時の流れでどんどん衰退して、その土地はマンションをつくるということで、大分大きいものをつくるようなことで、甲州街道に面して大きい、14階建てのマンションをつくるということで、地元の人たちと協力をしまして、市役所や都会議員、国会議員にも働きかけて、当時、

八王子の後藤聰一先生が市長だったわけですから、いろいろとご活躍を
していただいて、ちょっと話が長くなるので(「できるだけ短くしてください」
と呼ぶ者あり)そこで、当時、八王子市は文化都市といえども、30万人、40
万人ぐらいの都市でありましたけれども、そこに八王子の図書館がなかった
のです。そこで、たまたまそのマンションを何とかして 14階建てを
つくっては困る。なぜならば、1階、2階、千人町は西八王子の周辺ですか
ら、1階か2階の木造の建物ばかりなんですね。そこに14階建てを、甲州街
道に面してダアッと200、300のマンションができては大変だということで、
最終的にはそれをあきらめさせたんですね。そしてそれも、八王子の後藤市
長を始め、都会議員や何かも一体となってやったわけです。そして、今はそ
こに八王子市立図書館があるわけですね。2階、3階ぐらいの。それで、地
元も非常に喜んだわけであります。

八王子市は、30万都市であったけれども、都立の図書館はあったけれども、
市立の図書館は当時はありませんでした。文化的には非常におくれた地域で
あったわけです。それはそれとして、今、僕は八王子を回ってみますと、八
王子の中心、甲州街道に面してずっとある建物が、もう高層住宅があちこち
こっちにと自由に立ちはだかっているような感じをするわけです。やはり
魅力ある都市づくりというものは 以前はせいぜい2階ぐらいのお店が
ズラッと、甲州街道に八王子から高尾の方までずっといろいろな店があっ
て栄えていたわけですが、そこに高い、もう20階、30階近いのがどんどん建
っているわけですが、それに対する地域の住民として、また市役所を中心と
して法的な面で、何か規制をやるべきではないかと僕は思うのですよね。

林
深 沢

はい、わかりました。その辺のところですね。申し上げたいのは。

それと、あと一つ。今、一番問題なのは、私、ここの八王子駅をおりて、
つくづく感じたことは、八王子の駅をおりて、まず目につくのはあの看板を
持っているおじさんたちがあちこちにいるわけです。それは何かと
いうと、要するに御存じでしょう、ご婦人を中心にした商売の方が看板をあ
ちこちこちに持っているわけですね。

私は、駅を出た途端に目に映るのが、看板が四つも五つもあるわけです。
僕はあるときに、そのおじさんに言いました。「駅をおりて、最初に目立つ
のはあなたのこの看板ですよ。こんな看板をいまいしくしてもらいたいのだ」
と僕は話をしました。「もし何なら、あなたの会社の社長のところに行って、
僕は話したい」と言ったら、「私は生活がかかっているんです」と言ってい
ましたけれども、私は懇々と話したんですが、一応話してみると言ってい
ましたが、しかしこれは、八王子としていまいしく まるで、出たばかり
のときに看板があちこちにあるようなこういうものは、やっぱり規制して、
もっと明るい伸び伸びとした雰囲気をつくってほしいと、この二つです。建

物と環境です。

林 ありがとうございます。何か気がついたら、女性の方の発言が……、女性の方、男性ばかりなのか。どうですか。ぜひぜひ。

永 富 このような席でしゃべれるかどうか、ちょっと自分で自信がありませんけれど、今日、私がここに来た目的は、今、とても車社会、それで先日も風見しんごさんのお嬢さんがということで、ああいうテレビを見ていたときにとっても今、自分が普通にまちを歩いただけでもとてもこわい思いをたくさんします。それで、今、私もこれから学校に入る孫がいます。その孫がそういう目に遭わないために私は何ができるかなと思いました。現に友達にもそういうお子さんを亡くした方がいるので、その思いを私は今、今日、自分がしたいことをできる場所がどこかにないかなと思ひまして、今日、ちょっと参加してみました。自分が一番手短にできることはそういうところに入って、安全な信号機をつけるとか、そういう活動の場所がどこかにないかなということをおもひ立て、探しに来ました。そういうところがあつたら教えていただきたいなあということです。

林 ありがとうございます。お名前を差し支えなければ。

永 富 石川町の永富です。すみません、話がちょっとへたで申しわけありません。

林 いいえ、ありがとうございました。

まだまだおありのようですが、ちょっと時間があと15分を切ってしまうということでありまして、もうちょっとそれを……。皆さん非常にいろいろなことを熱意を持ってたくさん持っておられる。まさに、市長さんが言われるような「市民力」、そういうことだと思ひのですが、これを市長さんにいろいろ答えてほしいというお気持ちがいっぱいあつてのことではありますが、それを市長さんがここで答えては余りおもしろくないのですよね。むしろ、どなたかがおっしゃったけれども、要するにこういうことを議論する場ができないか。それから今、最後におっしゃったのは「そういうことを私は思ひているのだけど、何かそういうことをやっておられる方、あるだろうか。あつたら知りたい」ということですね。

京王線の沿線のところで、延長何百メートルかの看板ができるようなときに、何かそういう問題を京王線だけではなくて市民も入り、そのほか21だとかもある大学の専門家も入り、少し役所の人にも入ってもらつた方がいいと思ひますが、そういうところで少し議論をする場ができないかとか、何かそういう話が皆さんの中に共通してあると思ひのですよ。その場が、一体この今回のまちづくり条例で協議会みたいに思ひてできるものなのかとか、いや、またちょっと違つたやり方があるのではないかと、いろいろそういうこと

があると、大分議論が違ってくるのではないかという話なんですね。

関谷さん、その辺いかがですか。

関 谷

まさしくまちづくりというのはいろいろな人がいろいろなことを考えて、展開していくという意味では、今日、いろんなご意見をいただいたのはもっともだし、それが多分最初の自然なことだなと思います。

ただ、それぞれのいろんな認識とか、本当に短い言葉で、時間で話せるわけではないというのはまず大前提であります。今、おっしゃった仕組みづくりというのは、ここでとにかくぱって言って、それで終わってしまう、意見を終わってしまうということで終わらせてはいけないというのがまず第1にあります。

で、この推進条例でのいろんな仕組みの中で、協議会とか準備会というものがありますけれども、恐らく行政で考えるこの流れでない、まさしく住んでいる上での実感としての意見とか要望とかを考えることというのは噴出するはずなんですね。だから、それを単にこの条例の中の範囲で終わらせるのではなくて、そういうものをきちんと出す、出し切って、なおかつそれを真剣にみんなで、個人的に考えるのではなくて、みんなで考える場が、この場になってほしいなという希望はあります。

その結果、話し合った上で決まった具体的なものが何かあるかもしれません。セットバックの問題、いろんな景観的な問題が出てくるかもしれませんが、それはある意味氷山の一角であって、一角ではないその氷山そのものを議論できるような場にこれになってほしいというのが、私の考えるところでありまして、もう一つ言えば、ただこれが1回終わったら、それで終わりではなくて、むしろそれがまた繰り返される、サイクルが繰り返される、やってみたらまずかった。やっぱりこうしたいというものが生まれたときに、それが展開していけるそういう場になってほしいというふうに思います。

林

荒井さん、いかがですか。

荒 井

そうですね、今、お話を聞いていて、すばらしい景観の場所がフェンスでちょっと見えにくくなってしまったりとか、街並みをどういうふうにつくっていかうとかという話があったと思うのですね。

で、さっき市長さんがおっしゃってくださったんですが、私たち、みなみ野の私たちはとても幸運だったと思うのですね。というのは、本当に地域の住民の方々が、本格的に新しいまちづくりに地元の方が熱心だった。例えば、宇津貫みどりの会を担う私たちのお姉さん役のような会もあった、一つ前に。さっき歴史の話もされて、前後があるという話があったんですが。

それから、都市機構の方々がとても高い志を持たれていて、私たちが今、10面段々畑と田んぼと雑木林をやっているのですが、そこはもうテニスコートと野球場になる造成工事が始まっていたのを、公団の方々がとめてくださ

ってつくってくださったんですね。そういういろんな高い志。

それから、市の方々の情熱、それから私たち新しい住民の方の思いですね。それから、公園アドプト制度という制度がちょうど5年前にできたんですが、そういう制度があったんで、その公園を私たち市民がみずから主体的になって管理できるという仕組み、ルールができています。それらが重なったと思うんですね。

そういう意味で言うと、ルールがある中で20万円の立ち上げの資金があるということはとても大事なことで、私たち自然塾も5年間、都市機構がバックアップしてくれて立ち上げる準備をしてくれた。それから、専門家の派遣、それから事務局的には運営のアドバイスをしてくださった。そういう意味で言うと、この条例に本当に命を吹き込む、魂を吹き込むのは、今、フロアから声が挙がった方々と一緒になって、地域でまとまって、これをひとつ利用してやろうじゃないか。で、最初の立ち上げの20万円、2年間補助をもらえるんだったら視察にも行けるし、資料もつくれるし、アドバイスの派遣もあるし、市の方とも話してもらえる、これは本当に皆さん、今、声を出された皆さんと一緒に魂を込めさせて、私たち住民の、そして市の人たちと協働して、そして新しいまちづくりのものにしていきたいというふうに改めて思いました。という意味では、この条例はとても大きな意義があるのではないかなという思いを持ちましたね。

林 和田さんはまたちょっと違った角度から何かありますか。

和田 そうですね、今の皆様のお話を聞いていたんですけど、それで私みたいな学生の立場で、しかも美術大学に通っている立場で何ができるかなと、今のお話にあった中でと考えたのですけれど、やっぱり八王子駅に関するお話が結構出てきたのですが、やっぱり駅というそのまちの顔という場所はずごくとても重要なことだなと思って、先日、11月の都市景観セミナーでも、八王子駅をすぐ出たところのビルの屋外広告だとか、そういうこともまちづくりだとか都市景観だとか、そういうことで話題になって、それを取り上げて、市民の皆さんと考えたと、それに私もお手伝いをさせていただいたというところがあるのですが、そういうところで、八王子以外にも私たちのグラフィックデザイン学科というところでは、川崎市の大きな通りで屋外広告だったとか、通りの色彩というのをちょっと管理するというか、このまちにはこういう色があっているというのを、その都市景観セミナーで活用したソフトを使ってというそういうシミュレーションを行ったりとかそういう活動もしているので、ぜひ私たちができることという専門的なところで、私たち、学校、大学という機関も貢献できたらなと思います。

林 そうですね。大学でいろいろ取り組んでおられることがどういうふうに皆さんに伝わっていくのか、「あ、そんなことをやっているんだったら、ちょっ

と一緒に考えてもらいたい」というようなことが、そういうような共通の情報ネットワークというか、そういうものができるといいなあ、「条例の中にはそう言えば情報の提供とかいろいろそういうことも書いてあるよね」というふうなことがありますから、そういった意味でこの情報のネットワークをどういうふうにつくっていったらいいか、市民の側も考えるけど、行政の方も考えてもらいたい、こういうふうに思えるようなことがありますね。

市長さん、時間が切迫したので、市長さんのまとめを兼ねて、ひとつぜひお願いをします。

市長

今日は大変大勢の皆さんにご参加をいただいて、まずお礼を申し上げなければいけないと思うのです。今日は230名を超える皆さんのご参加をいただきました。やっぱりこれは、まさに「市民力」だと私は思うんですよ。やっぱりまちを思う気持ちがなければ、今日、貴重な時間を費やして、皆さん来ていただけないと思います。ですから、これはもう私どもにとっても、まちづくりのパートナーとして大変大きな力になっていただけるということを改めて私、今日確信をいたしました。

先ほど、いろいろなご意見が出ました。今後の問題に私が一つずつ、これは全部私がお答えしなければいけないことなんですけど、これのお答えをするのもあれですけど、これはまた要望と言いますか、こうあって欲しいというようなご意見もございましたから、ですからこれはまた私ども所管もおりますから、対応についてはもしお時間がございましたら、後ほどちょっとお話をさせていただければというふうに思います。

いずれにしても、広い意味ではまちづくりということですから、ですから皆さんがそれぞれのお立場でまちを本当に考えていただいて、そして気がついたところを発言していただいているわけですから、大変貴重なことだというふうに思います。

それと同時に、やっぱり「思い」というのは多様性があるんだなということ、これも改めて感じるわけでございまして、そういった皆さんのまちに対する思いというのをそれぞれの地域で、やっぱりこれをおまとめをいただいて、そしてこの条例を十分に使っていただいて、そしていい地域をつくるというそういうご努力をいただけないかなと。それは、行政は行政で一緒になってやりますよ、一緒になって。そして、参加をさせていただくことによって、先ほどちょっと言いましたけれども、行政職にある者もいい勉強をさせていただくわけですから。そして、これからのまちづくりというのは、やっぱりその地域に住んでおられる皆さんが主体性を持って、自分たちが納得する、自分たちがやっぱり魅力を感じるようなまちをつくっていくということが、私は肝要なことではないかなというふうに思っておりますし、そのツールの一つとしてこの条例を使っていただければと、そんなふうに思います

ので、ぜひこれからも一緒になってこのまちをもっといいまちにしていくな
めのさらなる努力を我々もさせていただきますので、これからもよろしくお
願い申し上げたいと思います。今日は本当に貴重な意見を賜りましたことを
厚くお礼を申し上げて、ご挨拶とします。ありがとうございました。(拍手)

林

たくさんご意見、あるいはご要望をいただいたのに対して、一つ一つ今、
市長さんがおっしゃるようにお答えする時間はありませんが、市は市でいろ
いろご意見を受けとめるということを試みたいというふうに言っておられる
のと、私の今日のお話からの流れで言いますと、一人一人の声がどういう広
がりを持って、言ってみればその思いを同じくする仲間をつくっていけるか
というそこがまた非常に大切なポイントなんですね。そこは、「行政、お願い」
と言っているだけではなくて、自分の周りで一人一人、そういう仲間が地道
だけでできてくる、その小さな広がりがだんだん響き合うと言いましたけれ
ども、それなりの仲間づくり、地域の思いづくりになっていくというそこが
とても大切なことだと思うのですね。

そういう意味では、こういった機会があって、この際いろいろ発言ができ
た、あるいはもう時間がなく、いっぱい手が挙がったような気がしますが、
そのご意見も伺えないまま、今日は終わりにせざるを得ないというのは非常
に申しわけないし、残念ですが、しかしまあそういう機会を、市の呼びかけ
だけではなくて、何らかの形で市民の方も、あるいはいろんな大学の協力も
得たりして、そういうことができるか、そういった市民が頑張っていて、市民
力で何かそういう場をつくっているんな議論をしてみるというのも、可能性
としてないわけではないなと思うのですね。それは相当積み重ねがあって可
能になると思うのですが、その出発はやっぱり自分たちがそういう思いを
持っている人たち、お互い同士、どうやったら知り合えるかなという、そう
いう出会いがどこで可能になるかというようなことですね。

ぜひ、その辺の出会いづくりの機会が、これはもちろん行政としてもそう
いう機会をつくることはできると思いますが、関谷さんとか荒井さんとか、
あるいは和田さんがそれぞれのお立場から何らかの投げかけをしてできるこ
ともあるかもしれない。ということは、要するにここに来ておられる皆さん
一人一人がそういう投げかけをして、できることがあるかもしれない、とい
うようなことでもありますので、「まちづくり」というのは何かそういうこと
から少しずつ始まる。初めは小さくていいですね。小さくてもそのことが1
人、2人と行くところが大切なポイントですから、ぜひこれを機会に皆さん
の日ごろ考えておられ、あるいは既にいろんな蓄積をしてきておられる、そ
ういうことがまた次の一步に展開していくように、市役所の条例づくりの範
囲だけではなくて、自分たちの思いでさらにそれが広がっていくように取り
組んでいただければと思います。

今日は、大変長い時間、皆さんにいろいろなご意見、ご協力をいただいて過ごすことができました。これで、一応今日の話し合い、ディスカッションを閉じたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

司 会

ありがとうございました。

2時間という限られた時間ではございましたが、本市が目指す魅力あるまちづくりにつつまして、皆様とともに考えてまいりました。いかがでしたでしょうか。パネリストの方々、また会場の皆様からのご意見、ご提案を通して、お一人お一人が行政と協働で、自分たちのまちを考える第一歩となれば幸いです。

また、本日のコーディネーターとして大役を果たしていただきました林様、そしてパネリストの関谷様、荒井様、和田様、そして黒須市長、大変ありがとうございました。(拍手)

それでは、コーディネーター及びパネリストの皆様が退場されます。盛大な拍手をお願いいたします。(拍手)

ありがとうございました。最後になりましたが、本日は大勢の皆様にご参加をいただきましてありがとうございました。

これもちまして、閉会とさせていただきます。ありがとうございました。



会場でのアンケート結果(要旨)

1. パネルディスカッションの内容等についての感想

- (1) 林さんの司会は良かった。質問の時間を多く取り上げて、声を出させて下さい。(70代男性)
- (2) 結果のいいことばかり言っているが苦労したことも話してもらいたい。(60代男性)
- (3) 良かったと思いますが、目で見ながらディスカッションも良いのでは?(50代男性)
- (4) つまらなかった。(40代男性)
- (5) バラバラの考え方の人の集まりが市民力かな?(60代男性)
- (6) 私も含め住んでいる八王子をよりよく住みやすい町にするために考えていることがよくわかりました。もう少し質問する人の時間を短くすることもあるが、あと30分時間をとってほしかった。(50代男性)
- (7) この様な集まりをこれで終わらせるのではなく、各地域(ブロック?)毎に集まりを設け、それぞれで特色があると思うので、キッカケ作りを行政にお願いしたい。(60代男性)
- (8) 少し難しい処もありましたが、だいたい理解出来ました。(60代男性)
- (9) 知らなかったこと(町づくり条例)など聞けて、大変よかったです。(60代女性)
- (10) 公園アドプト制度とか道路アドプト制度とかを活用している事例等を事例にとり入れてほしかった。(60代女性)
- (11) コーディネーターの議事運営が悪く、ずい分テーマからそれてしまった。確たる姿勢で、発言をコントロールすべきである。(60代男性)
- (12) 八王子市民になって25年にもなりますが、この頃駅前(商店街)の衰退を見ていてとても残念に思っていました。陰で皆様が努力されている内容を聞き、多少明るさを感じホッと致しました。(60代女性)
- (13) 相当の先生方が参加しているため、先生方から「この問題についてはこのようなことがいい」という言葉が欲しかった。または八王子はこうにしたらいい、ずばり一言が聴きたかった。(70代男性)
- (14) 市長以外の人は一地域の例であり、八王子市全体の議題を取り上げて欲しい。(60代男性)
- (15) パネリストの中に各々の町会(自治会)の長の参加があったらと思いました。(70代女性)
- (16) 黒須市長のお話は良く理解出来ました。パネラーの方々の内容はいま一つ掴みにくかった。(70代男性)
- (17) 八王子市ビル町並にビルが多すぎる事。店を多くしなければ、あかるい町を作らないとげんきフォーラムとはゆえない。(70代女性)
- (18) 好きなまちだから、自分には何ができるのか、少しでも自分の思いを、働きかけていきたい。(60代女性)
- (19) 条例の周知の為にはとっても良かったと思います。(50代男性)
- (20) もっと具体的な環境を考えた身近な例を聞きたかった。環境での出会いは、対話が難しいところが多いと思うので。(取り掛かりにくいので)(70代女性)

- (21) 多くの方の声を聞く点で、アンケートや発言メモを事前に出してもらおう努力を呼びかけたらどうか。(60代男性)
- (22) テーマが大きすぎた感じがしました。(60代女性)
- (23) 地域的にテーマを決めていただきたかった。(60代女性)
- (24) パネラーに、街中・歴史を知っている方を入れていただきたかった。(60代女性)
- (25) 地域的な話が多すぎたのではないかと。また、市役所にむいた話が多かった。長すぎる。(60代女性)
- (26) 住民参加の方法が判る。(70代男性)
- (27) 住民協の力も借りて、発想を集約できるように。(60代男性)
- (28) まちづくり推進条例については、知る機会となりました。各パネラーのお話は、内容的にやっていることを説明しているだけで、あまりかみ合っていないようだ。(60代男性)
- (29) 漠然として分かりにくいと思います。(60代男性)
- (30) 本当に地域の意見を汲み上げた内容か、地域に浸透した活動か、一部の人たちの考えではないのか、地域の30代～50代位の方が参加しているのか。(60代男性)
- (31) 住民との共有できる内容。住民参加の話し合い。(60代女性)
- (32) コーディネーターが苦労していますが、「八王子の魅力あるまち」に絞って欲しかった。目指す具体例が欲しかった。(60代男性)
- (33) 自然の恵みを残す責任を痛感しました。経済的なことも大切。(70代女性)
- (34) みなみ野ボランティアは、大変参考になりました。(60代男性)
- (35) パネラーがしゃべりすぎ。司会が話し好きですね。もう少し市民の話を聞いて下さい。(60代女性)
- (36) 地域を“魅力あるまち”にするために、様々な取り組みを行っている方の話聞けて、大変勉強になりました。しかし、“魅力あるまち”というものに対する考えは人それぞれであるため、とても難しいと思いました。(20代女性)
- (37) まちづくりについて、ハード面(関谷氏)とソフト面(荒井氏)と分けましたらどうか。(70代男性)
- (38) それぞれの活動の発表に留まっている。(50代女性)
- (39) 聴衆の質問内容がテーマとはずれ、市長に対しての行政の対応のまずさのクレームが多く、ディスカッションの内容と違って残念さが残った。(70代男性)
- (40) 小学生や生徒会の取り組みが主体で行われていることを知らなかったのが、今後の取り組みの参考にさせていただきます。(20代男性)
- (41) 「まちづくり」の中でも特定のテーマに絞った方が良かったかもしれない。(20代男性)
- (42) 地域で活躍するパネラーの話は説得力あり参考になった。(70代男性)
- (43) テーマが最大なポイントの内容不足。(70代男性)
- (44) ささまざまな住民の集まりであるからこそ、多種多様なすばらしいまちになる。市民として推進に協力していきたいです。(40代女性)
- (45) 余り新味は感じられない。(50代)
- (46) 学生は「街の宝」という市長の言葉に賛同する。若い力・個性を引き出して、街づくりに生かしてほしい。(60代女性)
- (47) パネリストの選出バランスが良い。(60代男性)
- (48) 小田野地区・みなみ野地区の体験談良かったと思います。だが中心市街地区の実例を聞きたかつ

た。(60代男性)

- (49) 具体的な内容がありわかりやすかった。(60代男性)
- (50) チョット期待外れ。「まちづくり」への意識はupしたが。具体的事例(課題別・活動体別等)に「ワークショップ」をやって参加者が知りたい「まちづくり」のノウハウやアプローチの仕方etcをやれば、更に理解が深まったと思う。フロアーからの質問は的外れで私的なものが多い。質問の出し方を規制し、事前に明言すべき。(60代男性)
- (51) まち作りの理想すぎて、市民からの意見とのギャップを感じました。(60代女性)
- (52) 立場の人々の思いが理解できた。(60代男性)
- (53) 荒井さんの話はよく分かった。コーディネーターの林さんの最後のまとめ方がとても良かった。町づくりは人と人とのつながりだということである。(60代女性)
- (54) 地区・町会としての方向性を作成するのにプラスになることが多かった。(60代男性)
- (55) 田舎の話なら良いのでは 市全域、富と田にしたら? 独創性がない。見学ばかりではない。夕焼けの里は記念碑だけにしたら良い。発展はしない。(70代男性)
- (56) 説明がはっきりしないで聞きにくかった。もう少し活気ある雰囲気があれば、聞いている側の元気も見えたと思う。発言者の時間になってから盛り上がってきたように思う。最後時間がなくて残念であった。(70代女性)
- (57) 大変有意義な内容でのディスカッションでした。(70代男性)
- (58) 内容豊富で各担当の方のご意見が貴重であった。参加して良かったと考えています。(60代男性)
- (59) パネリストの人たちそれぞれ、活性化のために行動をおこし、八王子をよくしようという情熱があるというのが、すごく伝わってきました。(20代女性)
- (60) 高齢化進みお年寄りだけの町を活性化するにはどうすれば、環境モラルの向上を計るにはどうすれば良いか、などを討議してもらいたかった。(60代男性)
- (61) テーマは良いが内容が抽象的かつ貧弱。(70代男性)
- (62) もう少し積極的な提言が欲しかった。(70代男性)
- (63) 色々な立場の方々の参加で興味深い内容で参考になりました。(60代女性)
- (64) いろいろな立場で努力されていらっしゃる方がいらっしゃることを知りました。(50代女性)
- (65) ちょっと片寄った感じ。(70代男性)
- (66) 自分達の地域も大人も子どもも参加できるような地域になればいいなと思いました。(40代女性)
- (67) 大学生との交流が有る事をあまり知らなかったのですが、もっとコマーシャルをしないと。(60代女性)
- (68) 自治会活動しているので、大いに参考としたい。(50代男性)
- (69) 市街地の話材も取り入れる事も必要と考えます。緑・自然等は大切な事は理解していますが。(50代男性)
- (70) 各体験談がとても良かった。とても参考になった。(70代男性)
- (71) 各々のパネリストの行っている活動から得られた貴重な話が聞けた。(20代男性)
- (72) 中心部に住んでいるので、「八王子」というひとくりにしてはいけないことに気付かされました。広い範囲の中で、それぞれの地域ごとに特色ある活動をされていることを知りました。(60代女性)
- (73) 学生が多く居るのだから、若者の参加のまちづくりというのは、街が若々しく明るい街になると思い、学生は八王子の財産と言われた市長さんの言葉はその通りと思った。(60代女性)

- (74) 緑の話で8.7倍あったということは喜びではなく危機感ではないでしょうか。今日午前中、みなみ野の尾根を歩きましたが、いい散歩道が産廃業が入り道が広がり、両側がフェンスでめかくしされて不安になりました。ぜひ一度みにいって下さい。緑は町のいやしの部分ではないでしょうか。(50代女性)
- (75) 地域地域によって町づくり・やり方が違うので、場所場所で考えて行く全体となるとむずかしい。(70代男性)
- (76) 市民パネラーの皆さんの活動を聞いて、市民参加で新しいまちづくりの活動が始動しているのを知り、期待出来そうだととてもうれしいと思った。(60代女性)
- (77) 今のままでは発展性がない。(70代男性)
- (78) いろいろな話が聞けてよかったと思いました。1人ではできない多くの人々の協力、話し合いが大切だと思いました。(50代女性)
- (79) テーマとはかけ離れた内容のもので「まちづくり」とは？ 課題の内容が広すぎて、まとまりのない気がした。(50代女性)
- (80) 特に後半、一般の人の質問に対して、パネラーの方の考え等聞いたり、充実したパネルディスカッションでした。(50代男性)
- (81) お話の中でもありましたが、行政から押しつけられるのではなく、住民の意見を取り入れるという画期的な事と思います。(40代女性)
- (82) 和田さんのお話の「個性を大いに役立てるものを出来たら」と荒井さんの八王子を愛する話や、市長さんの八王子のために体をはる姿と、関谷さんの八王子を楽しむための努力が強く心に残った。質問する方々が手短に出来ないほど他の方々も八王子を良くしてほしいという意気込みも嬉しかった。(30代女性)
- (83) 黒須市長のまちづくりを拝聴し、八王子の前途に希望を痛感いたしました。(70代男性)
- (84) 現在、パネラーの団体・大学の活動内容の評価の高いことと同時に課題を聞きたかった。市長の街作りに対して、今何が一番気がかりかor問題かを聞きたかった。条例を活かしていく為、役所内で何か障害になっていること、問題に感じていることがあれば聞きたかったです。その上で市長へ何を一番望んでいるかも聞きたいと思いました。仕事に生活の全ての時間をかけざるを得ない世代の若いお父さんお母さんの声(届きにくい)をどう受け止め、活かしていくように思われるのか聞きたいです。(60代女性)
- (85) パネラーの地域性より出来る事です。中央からもパネラーを出したらどうか。(70代女性)
- (86) 市長への苦情ばかりになりがち。質問する方の苦情では質問になりません。まちづくりは、町の中は地元ずっと住んでいる方と新住民との意見のくいちがいで大変むずかしいので、その話し合いを上手にやる方法が聞きたかった。(60代)
- (87) 内容をもう少し掘り下げて伝えていただければと思いました。(60代女性)
- (88) 商店街の活性化を図った計画的に個人商店の持続性を活かす街並みにしたらと思う。商店の街並みが人の流れを良くする。(70代男性)
- (89) おもしろかった。(50代男性)
- (90) 条例作りの質問会と思えた。(70代男性)
- (91) 今後の八王子を考える意味では、興味深いテーマであったと思う。(50代男性)
- (92) 新しい町は自分達で色々考える事が出来るでしょうが、古い町は何から手を付けて良いか私にはまだ良くわかりません。(60代女性)
- (93) テーマからみて「まあまあ」と思うが、法律上の問題をもっと取り上げる必要あり。建築基準

法、都市計画法など規制だらけの現実がある。(60代男性)

- (94) パネラーはもっと具体的なものを八王子に提案してもらいたかった。(60代男性)
- (95) 小テーマの構成が良く、ディスカッションがわかりやすかった。またパネラーの方々も具体的な内容のお話があり、興味が強まった。(50代男性)
- (96) 全般的な印象としては良かった。(70代男性)
- (97) まちづくりのキッカケのポイントについてフォーカスを当て、それを会場と共有しようとしているのは理解できるが、どうしても各人の活動色が強くなってしまう。この手のフォーラムは非常に難しいですね。少しビジュアルがあっても分かりやすいのでは。(40代男性)
- (98) まちづくり条例、パンフ共にハードウェア的だが、特に荒井氏・関谷氏の話は、住民が豊かに生活する、暮らす為のノウハウ、ソフトウェア的で参考になるし良かった。(60代男性)
- (99) 条例作成の手続きの意味を簡単に理解できた。(60代男性)
- (100) グループディスカッションの場もあれば、更に盛り上がったと思うので、次回はこれもセットにして実施を(70代男性)
- (101) 30分ぐらい、テーマに関するどなたかの基調講演が聞きたかった。(40代男性)
- (102) 地域住民参加主導による公園造りや、みなみ野自然塾の具体的活動事例などを拝聴し、機会があったら自分も地域まちづくりに、積極的に参加してみたい気持ちになった。(60代男性)
- (103) 各々参考になりました。各人色々考えを持っていると思うが、もっとたっぷり時間をかけて討議する場が欲しい。(70代男性)
- (104) まちづくりの基本は、そこに住んでいる住人が積極的に参加して進めていくことが大切であることが、良く理解できた。(60代男性)
- (105) 町造りについて、とてもわかりやすく、魅力ある町となる事と楽しみです。(70代女性)
- (106) 新興地域ならではの町づくり。住民とそのリーダーが意識を高く持ち、活動の概要は良かった。ただ、つくりあがった旧市街地での困難な点、今後の課題。(50代女性)
- (107) この様な条例が発足されたことが解った。パネラーの方の説明(考え方)が不足していたように見えた。(70代男性)
- (108) 一つ一つの小さな地域活動が、行政と協働によりネットワークがつくりあげ。環境・自然・公団整備は必要だが、都市づくりの面が弱い。八王子に必要なのは、都市としての景観・商業都市。住地域の自治会の加入率upがPointか。(60代男性)
- 荒井氏の様に行政の出来上がった所へ引っ越してきたのと、私の様に土着の住人の中へ引っ越して来た。基本的に、また年代も45年前家を建てるために井戸から掘っての苦労とは拡大の開きで生ぬるく、5人のパネラーが揃っても根本から違う。5人は幸せの上に乗っかってる感が強い。(70代女性)
- (109) 第一回の公開の会だと思うので、開催したことは大変よい企画であったと思う。次回も開いて、今までの各活動等が図示されるようにして欲しい。(70代男性)
- (110) 1.コーディネーターの個々の思いが公になる よいことば 2.若い人の参加が少ない - 前からの課題(50代)
- (111) 各人の活躍は参考になった。しかし、一方で区画整理の大幅な遅延、あちこちの交通渋滞 - この現実を如何に整理するのか。(70代男性)

2. 「魅力あるまちをめざして」についてのご意見・ご提案

- (1) 今後、回数を多くして欲しい。(70代男性)
- (2) 同じ意見を持った仲間作りの機会を増やしたい。(70代男性)
- (3) 市街地を昔のように活気あるまち作りを考えてもらいたい。八王子市には市民全体に力があるので、その力をどのように使うか、今日のようなフォーラムを行ったら。(60代男性)
- (4) みんなの意見を聞いたり、話すことをするとよいと思う。(40代男性)
- (5) 子供が規制なしに動ける場所。(60代男性)
- (6) まちの特長を残したり、個性をいかした町づくりが大切だと思いました。(50代男性)
- (7) 八王子は広く人も多く各種の町がある。それぞれが町づくりを行っていると思うが、私の住んでいる多摩ニュータウンは自然発生的に出来た町でなく、人工的に計画された町づくりであるので「魅力ある」とはなんなのか“それぞれの町を紹介してもらいたい”。(60代男性)
- (8) 比べることはしなくてよいと思います。八王子の特徴を出す「まちづくり」をしてもらいたい。しなくてはならない。(60代女性)
- (9) 新しい地域はいろいろ創り上げるのに適しているが、既存の地域に生かしていくのには、大変な努力と住民のヤル気が必要だと思う。次世代の方と協働していけたらと思う。(60代女性)
- (10) 市長の話以外は部分的で参考になったが、取り上げる内容ではない。(60代男性)
- (11) 新興住宅地に住んでいますと、個人の力などいいと考えておりましたが、出かけても周囲に“目”をこらしたいと思いました。(60代女性)
- (12) 補助金を出してほしい。(50代男性)
- (13) パネルディスカッションもいいけれど、市長をはじめ市の部長クラスと会議をする方がより有効ではないか。質問した件名について、ある程度答えがもらえるのではないか。(70代男性)
- (14) これからの八王子はどうして行くかという設計を知りたかった。私はそういう基本を考えて欲しい。専門部門を持ったらとも思います。(60代男性)
- (15) 市長が出席している会なので、本来の話を中心にしてほしい。苦情処理の会議ではないと思います。(60代男性)
- (16) もっとたくさん議論の場を作りたい。(70代男性)
- (17) まちづくり＝住みよい町＝人間にやさしい町＝高齢者の参加しやすい町＝地域と考えると縁もよいですが、そこに住んでいる人々がいかに元気に過ごすことが出来るかということが必要だと思います。(70代女性)
- (18) JR八王子駅を中心に商店街の広がりが小さくすぐに住宅街に入ってしまう。商店街も個人商店が多く、住宅と商店が混在している。商店を集約して一つのビルに集合する等の施策を。商店組合の考え方は??(70代男性)
- (19) 個人個人立ち上がるむずかしさは、日々生活する中で思い知らされています。知らない人達との交流をもっとたくさん知らなくては思い知らされました。(50代女性)
- (20) 先行事例を(世界も含めて)ビジュアルにたくさんみせることは重要。(50代男性)
- (21) 意見をどのような方法で集約するか。“意見を述べる人はいつもきまっている”本当の意見を集める方法これが必要だと思います。(60代男性)
- (22) もっと、具体的に身近なこと。最近、高齢者の多い日本です。交通を考えて、楽しいこと。若い人に頑張ってもらいたい。(70代女性)

- (23) 条例を利用しながら、地元に戻って、町会やシニアクラブをベースに、何ができるのか考えてみたいと思います。(60代男性)
- (24) 旧市内の商店街の空き家が目立っている。(60代男性)
- (25) 地域の老人だけが活動している様に思われている現在、社会に於いて20代~40代位の人たちが道徳を重んじた街づくりに取り組み、歴史を重んじ未来に向かう様な活動ある街づくり。(60代男性)
- (26) 各団体(老人会、婦人会、町会、育成会、青年会)、小学、中学、高校、大学の一致した意見を見出そう。(60代女性)
- (27) 交通のルールを守る点では、自転車の方が車より悪い。通行人は、必ず右を歩くこと。(60代女性)
- (28) 外観も大切だが、人の流れがスムーズにいかなければ、どんなに花があり建物が素敵でも、元気は出ないと思う。これは、車の両輪だと思う。(70代女性)
- (29) 地域で全員参加できることが大切だと思います。(60代男性)
- (30) 今回のフォーラムで、市民のために又市のために尽くさなければならないと感じました。私たちの地域は、みんな80歳を越えた人たちですが、頑張っています。(70代男性)
- (31) 緑のまち、高尾山等無くさないようにしてください。(70代男性)
- (32) 長沼の駅周辺を考えて下さい。(60代女性)
- (33) 市としてのまちづくりのキーワードが必要。「魅力ある」だけでは不十分。条例の下の「基準」(共通する)も必要。市として、それぞれのゾーンでの「基準」づくりが必要では。そうしないと具体的な行動につながらない。(70代男性)
- (34) 開発時の規制があるべきだ 出来上がってから対応するのでは遅い 売却された家を2戸建てになるケースが多い。高齢化に対応した町づくりが必要だ。(60代男性)
- (35) 私は“魅力あるまち”とは、子どもも高齢者も障害者も含む誰もが生活しやすいまちを指すのではないかと思います。(20代女性)
- (36) 八王子らしさの伝統とはなにか。商店、産業(農業・工業・商業など)について議論したい。市のリーダーとしての役割は拠点づくりではないか。(70代男性)
- (37) 地区(八王子は巨大な面積をもつ街なので)ごとの特徴を知る機会、また市内在住の大学生が集まれる場はどのように行えるのでしょうか。また「みなみ野」の都市モデルを他の地域にひろげていけばよいのでしょうか。(20代男性)
- (38) 一人ひとりの継続する強固な意志が必要。足元からまず一歩が肝要と感じた。(70代男性)
- (39) 同じ問題意識を持つ市民が知り合える場を行政が提供できないだろうか。(50代男性)
- (40) 歩道・車道の街路樹多くする。(70代男性)
- (41) 子ども達が「魅力あるまち」と思える、自信もって言える町にしたい。大人から子どもまで参加出来る、一緒につくり上げていく事が必要だと思う。(40代女性)
- (42) 業者あるいは在来の住民(昔から八王子にいる人)も参加させるべきと思う。(50代)
- (43) 大学を誘致したのに市はそれを活用しなすぎた感があります。(60代女性)
- (44) 緑と歴史を生かした町づくり。(60代女性)
- (45) 公園の整備が大変良くなって利用者にとってありがたいが、夕方5時以降残念ながらゴミの山(中学生大半)、毎日朝登校時(安全パトロール)、そうじをするも間に合わぬ。マナー表示を増やしてほしい。せっかくの駅前、パチンコ店ばかりでオソマツ。改善がほしい。何らかの制限は出来なかったのか。条例等。(60代男性)

- (46) 私の町では、花を植えようということで、町会で花なえを買って町民の皆様に出しています。これもとても良いことだと思っています。市としても可能性があれば検討して下さい。(60代男性)
- (47) 歩道を占有している商店の看板・商品・のぼり等を規制してほしい(市の条例で園道・都道の歩道も規制できることが条件)。(60代男性)
- (48) これ以上の緑をへらしてはいけないと思います。八王子警察の駐車場が足りない。高いマンションが多すぎる。暖かすぎて眠くなります。(60代女性)
- (49) “条件”のPR良かった。(60代男性)
- (50) 魅力あるまちに関しての考え方...単に建物とかではなくそこに住む人の意識・連帯などに関することではないかと思っていました。が、市民の方々の意見にはがっかりしました。(60代女性)
- (51) 多摩全域の市による住み分け検討(例、立川 - 商業、八王子 - 住居、日野 - 工業等)(70代男性)
- (52) 中心地の商業地の活性化是非取り上げてもらいたい。(70代男性)
- (53) 町づくりの基本は住民の思い・力だと思います。(70代男性)
- (54) 次世代を担う子供達に大きな財産を残していかなければいけない。これは我々大人の責任であると考えます。(60代男性)
- (55) 八王子活性化のために頑張りながら、市民が暮らしやすいまちづくりをお願いしたい。(高齢化社会に向けた取り組みを) 八王子は高齢者多い。(20代女性)
- (56) 1.美化運動として、たばこのポイ捨て禁止条例の制定 2.20号沿いの商店街の活性化(ラーメン北街道)(60代男性)
- (57) 毎日一日一善でゴミ拾いをしている。自分の目の前だけでも掃除してほしい。ひとりでもゴミ拾いをする人を増やすことをお願いしたい。(60代男性)
- (58) NTT、銀行、丸井、三省堂撤退。如何に撤退を防ぎ、呼び寄せるか、駅前の活性化を考えるべきである。立川、町田を参考にして駅前の構造も再検討すべきである。(70代男性)
- (59) 明日の街づくりが見えてこないように思います。自然が豊かであれば、それをどう具現化するか、現状はどうか。具体的な意見や提言が必要だ。(70代男性)
- (60) 少ない単位のコミュニティ。自治会の活用が望ましいので、存在しない地域に自治会発足のお手伝いをお願いしたい。(60代女性)
- (61) 甲州街道の古い商店の方々にも今日の話聞いていただけたらと思いました。若い方のアイデアでもっと人が集まる商店になって欲しいと感じました。人が沢山集まる街になって欲しいです。(50代女性)
- (62) いろいろな意見を集める。(70代男性)
- (63) 地域でも八王子を知ることはいじです。若者が知らないことをおじいちゃん、おばあちゃんに聞きながらいろいろとやってゆくこともいじですね。(40代女性)
- (64) 大学生のパワーと勉強と中高年と交える場。(60代女性)
- (65) 地域でのルールづくりが大事であり、必要であると思う。(50代男性)
- (66) 八王子の駅周辺の活性化を出来ないか。立川と町田の駅の周辺は若者達とか色々な年代の人達が大変多く、八王子は残念ながら駅の周辺は活性化がとぼしい。(60代男性)
- (67) これからの八王子はものづくりのまちなのかもしれない。作り出すことのつながりからまちが出来るのかもしれない。(40代男性)

- (68) 時間をかけないとうまく進まないと感じた。地域にどうおとしこんで行くかがポイント。末端から上がらないと難しい。その道筋がつけば実施は可能。(60代男性)
- (69) 市民と行政が協働していく上で、いかに行政が本気になって取り組むかであるが、市民自体も力を合わせなければならないと思う。(20代男性)
- (70) 立川に抜かれてしまったのでは?(50代男性)
- (71) 駅前にいるピンクブラカードは池袋駅のように「白黒」でサイズも定型とするということのようなことは出来ると思いますが。それだけでも感じの悪さが減ると思います。(60代女性)
- (72) 若者への働きかけをテーマにしてはどうかと思う。全ての面で必要。(60代女性)
- (73) 若い方の意見を聞きたかった。若い方の参加が少なかったことが残念。(50代女性)
- (74) 散歩が好きでよく歩きます。土の所が少なくなってきた、緑のみちが切れていきます。(50代女性)
- (75) オンリーワンの街づくりを市長より発言ほしかった。(60代男性)
- (76) 発言の内容が苦情に聞こえた。(70代男性)
- (77) 条例の運用についてももっと議論してほしかった。(40代男性)
- (78) 多様な発言が出来るこの様な機会を多くすると良いと思います。市民力を活かす方向の施策を期待します。(60代女性)
- (79) 町づくりは行政と市民(町民・学生)が話し合っで行う事が望ましい事が分かった(そう云う場を多くつくる市が必要)。条例が出来た事を知り、希望が持てるようになった(町づくりに)。町づくりのための意見交換出来る窓口を役所の中に作って欲しい(要望<私達も条例を生かし活用していきたい>だけで終わってしまっはストレスがたまる)。(60代男性)
- (80) 「げんきフォーラム」というネーミングが抽象的すぎるのではと思いました。(20代男性)
- (81) 国道20号の沿線を活力ある市街地にしてほしい。(70代男性)
- (82) 身近な家の近くの公園や街路樹の回り、家の前のゴミ、雪かき等出来ることから始めて、ご近所から自治会とかに広がり、手のいき届く環境はつくることができる。(50代女性)
- (83) みなみ野のように若い住民が多くいる所では、活発に活動がなされていけるとは思いますが、古くからの方がほとんどの地域では若い方が参加する事が少なく、変化する事がむずかしいものがあると思います。若い方達の無関心もあるとは思いますが・・・(40代女性)
- (84) 新しく出来る町はどんなことでもできるが、今まで住んでいる町はなかなか新しいことをやるのはむずかしいと思う。(70代女性)
- (85) よろしくお願ひ致します。老人の住みよい八王子の町を。(70代女性)
- (86) 私もパネラーの方々の様に“魅力あるまち作り”が出来たらと思います。「楽しくなければまち作り」ではないという言葉に同感しました。パネラーの方々の情熱にも感動。(30代女性)
- (87) 買い物に散策に祭りに多くの方々がトイレに困っているのではないかと 増設を切望いたします(無料) 提案:道路に面するビルに誰もが使用可能なトイレの設置(マップの作成)を義務化など真摯に思います。(70代男性)
- (88) まちづくりについて、八王子市の中心街をもっとにぎやかにしてもらいたい。若者の町として大学ばかり増やさないで、年寄りの過ごしやすい町としてもらいたい。公園・学校の校庭をもっと貸して頂きたい(ゲートボール、グラウンドゴルフ等回数が増えれば、お年寄りも外に出て元気にな

るのでは)(高齢社会を考えて) 住民(特に子供達)が安全に通勤・通学・買い物が出来るようになっていくのが魅力あるまちづくりではないでしょうか!(60代)

- (89) げんきフォーラムに毎年参加しております。初めころからみて感じていることは、対話の内容がより身近なところに真剣に考え発表していることにうれしく思いました。(60代女性)
- (90) 高尾駅周辺の商店を集合化(北口)を図って行き、観光地のシンボル化を図る。八王子商店のセンスがなく、引きつけるものを作り、若者の店主を生かせば新しいアイディアが出ると思う。又、学生を生かした街づくりをすると良い。よりよい八王子の街を早急に作り上げて下さい。(70代男性)
- (91) 八王子の伝統的なもの織物、宿場町などのことを考えられないか・・・(60代男性)
- (92) 市民参加を積極的に。(50代男性)
- (93) 両立がむずかしいことではあるが、落ち着いた雰囲気があって、なおかつにぎわいのあるまちを考えていくとよいと思う。(50代男性)
- (94) 例として、八王子市内の中小河川すべての護岸コンクリートや金網を撤去できないか。住民の意見を聞きながら進めてほしい。(60代男性)
- (95) 八王子市民が外に向けて自信を持って言えるまちの良さをもっとよく知ってもらえるような情報提供の場(駅前にとか)(40代男性)
- (96) 散歩できる街づくりをしてもらいたい。例えば市の美術館へ行くにも、途中ただ歩くだけで寄って休める所、見て楽しめる所が2~3ヶ所あれば楽しいと思う。ベンチを置き、年寄りや若い学生が楽しめる食べ物飲み物特産物等を置いたらいかがでしょう。又は学生の作品発表できるものを置くのはどうか・・・。学生の力も使う。(60代男性)
- (97) 今後のまちづくりは「市民」主体で進めるべきである。その市民意見をどのように行政が判断するか重要であると思う。(50代男性)
- (98) 「地区まちづくり推進条例」の使い方について。地域への紹介(営業)を積極的に行ってはどうか。(40代男性)
- (99) 「まちづくりにはいろいろなアプローチがある」とのパネリストの言葉に、市長さんの語られる教育もまちづくりの1つであるんだ...と気づかされました。ハード・ソフト面を併せ持った心豊かな調和のとれたまちに発展させるために、次世代にはずかしくない選択をしていきたいと思ひます。(40代女性)
- (100) 子供の育成に良い環境と高齢化社会での安全環境作りの社会環境作りとハード的な対応と共に考え、実行していきたい。(60代男性)
- (101) ひとつの提案。市の花<山百合>の苗を市の一部職員の方も含んだボランティアグループが配布していると聞いた。是非、この運動を市として一大ムーブメントとしてやって欲しい。(70代男性)
- (102) まちづくり条例(例えば公園づくり、自然塾)の広報等による紹介を積極的に行う。2時間では短い。3時間程度にしてほしい。(60代男性)
- (103) みなみ野・南大沢は新しい町ですが、年毎に汚くなっていくように思ひます。10年・20年とだんだんに味のある手の入れ方、加え方、使い方、あるいは計画的に見直したり、チェックしたりはできないものではないでしょうか。100年後には、更に美しい味のある町並になっていくように現在を考えて取り組んでいってほしい。みなみ野駅周辺の景観(色・看板等)が、どんどん悪くなっていく予

感あり。しっかりとした先を見据えるプロデューサーが必要。南口開発では、ぜひ魅力ある玄関口にしてほしい。(60代女性)

- (104) 魅力あるまちと住み良いまちは、同じ様ですが、小さな所から住み良いまちに。例えば、狭い歩道の中央に電柱があって歩き難い等々。(70代男性)
- (105) 道路の整備されたい。開発の促進について。(70代男性)
- (106) 自分たちの置かれた地域の特色を活かすこと。(70代男性)
- (107) 市内は歩行禁煙にしてほしい。魅力あるまちにするための一つの条件として、安心して住めることが重要と思う。これからは「団塊」の世代の活力を生かした方法を考えられる。(60代男性)
- (108) 若い人がもっと多数参加して欲しい。(70代男性)
- (109) 機会の復々開催を望みます。(50代女性)
- (110) 参考資料を早めに頂きたい。討議時間が不足した。(70代男性)
- (111) 八王子の顔であるJR八王子駅前、特に北口(南口は都市計画あり)の活性化が必要であり、大型デパート・量販店・映画館等の施設が欲しい(消費者金融、パチンコ、飲食店では市のイメージが悪い)。高尾駅より御陵までの歩道建設は良いアイデアであるが、御陵の前に「大正・昭和の館」を設置し、大正・昭和期の歴史展示館として資料を揃えとともに、小ざれいでセンスのある店を作って観光の名所としたい。(60代男性)
- (112) 私は横川町在住45年になるが、バス20分から15分位遅れて来る。陣馬街道の渋滞によって、次の電車で遅れ、それも特急、1時間に何本と行き先には予定通り着いた事がない。また、歩道も車道への巾狭く急坂で、回りの大学生自転車の猛スピードで、手足甲、足のつけ根骨折、ねんざで行政を良くしてください切望です。みなみ野方面との格差、同じ市とは思えない。行政の悪さ。45年間一日として住めば都とは思えない所ですので、古い地区に目を向けて下さい。(70代女性)
- (113) たいへんよい企画である。市職員の対応もよい。(70代男性)
- (114) 条例を考える。協議会と始末から活動している町会・自治会との違い。(60代男性)
- (115) 安心安全な街。とくに子どもの安全 - すべてにIT化が必要か。これが大幅に遅れている。(70代男性)

3. 今後、取り上げてもらいたいテーマ等

- (1) “町会長”はいろいろ負担が多くなっています。市から活動費など出ないのでしょうか。町づくりをするためにも必要かと思うのですが。(60代女性)
- (2) 予定。(50代男性)
- (3) げんきの基(60代男性)
- (4) 質問は手短に、前もって出すようにした方がいいと思います。主旨に合ったテーマ。(60代女性)
- (5) 美しい街八王子にするのにはゴミのない街にするのにはどうしたらいいか。(70代男性)
- (6) 最終段階は人造りと考えますので、いつかテーマにしてほしい。(60代男性)
- (7) もっともっと町づくりに関して取り上げて欲しい。(70代男性)
- (8) 湯殿川、浅川で子供が泳げる川にしたい。「川が美しい八王子」をテーマに。(70代男性)
- (9) もっと一般の人の意見を聞いてほしかった。(60代男性)

- (10) 行事例を（世界も含めて）ビジュアルにたくさんみせることは重要。（50代男性）
- (11) 健康づくりに関したこと。（例）皆で楽しく歌う会だとか、軽い手足を動かすとか。（70代女性）
- (12) わが町見直し隊とガイドクルーのような養成を。（60代男性）
- (13) 議題を決めて話し合える場を多く望みます。（60代女性）
- (14) 各地域における防災活動のあり方（特に地震を対象にした）（60代男性）
- (15) 旧市内のまちづくりをテーマにフォーラムをお願いしたい。（もっと少人数のフォーラムを）
（60代男性）
- (16) 歴史古き八王子に観光による光を。（60代男性）
- (17) 八王子の町も美しくなった（ポスターが電柱になくなった）が、たばこの吸殻をなくそう。私は、ごみ拾いをしているが、一番大変である。（60代女性）
- (18) 高齢者の多いまちを、独立させない交通問題を考えていきたいし、交流を大切にしてその上で美しい楽しい町になればと思う。（70代女性）
- (19) 1.税金はどのように使われていますか？ 2.どうして高尾山に穴をあけてまで道路をつくらなければならないか？（70代女性）
- (20) 行政改革について。（60代男性）
- (21) “障害者の社会参加” 大企業の工場などで、障害者を雇用したりしてほしい。（20代女性）
- (22) 甲州街道沿いの商店街の活気を取り戻したい。（50代女性）
- (23) 八王子駅周辺地域と他地域（南大沢、みなみ野）との連携・交流方法について。（20代男性）
- (24) 地域の子どもの安全対策について。（70代男性）
- (25) 八王子の学園都市像（20代男性）
- (26) 古い公団土地の整備。（70代男性）
- (27) 教育問題（50代）
- (28) ダンカイ世代の市民参加問題と街づくり・人づくり・社会貢献・地域活動参加メニュー（60代男性）
- (29) 高齢者に対する生活環境に関するもの。（60代男性）
- (30) 少子高齢化が進む時代背景をふまえて町内会（自治会）（含、自主防災活動）活動をどうするか、どうあるべきか。（60代男性）
- (31) 車社会の整理。（60代女性）
- (32) 地域の環境活動具体化すること。（60代男性）
- (33) 三多摩の広域も共有できるものを。（60代男性）
- (34) 質問者の答えを出してその上で又討議出来たらと思う。意見も言っぱなしではおかしいと思うし、気の毒であると思う。（70代女性）
- (35) 現在私の町では住民は八王子1番ですが、防災上から見た公園もなく集会場も狭く困っています。地域町会・自治会等の問題点を重点的に行政考えて欲しい。集会場のあらゆる事の調査を市で実施したかその結果をお尋ねいたします。（70代男性）
- (36) 市の職員の意識改革をしたい。市の職員は地域での協力度が低い。（60代男性）
- (37) 今回のやり方がいいと思う。学生の人を多く参加させて、議論させるとおもしろいのではないかと。（20代女性）
- (38) 高齢化の進んだ住宅環境改善はどうすれば良いか。（60代男性）
- (39) これからの街づくりを他のテーマと共に企画してほしい。（70代男性）

- (40) 圏央道の完成に伴うプラスマイナス等。(60代女性)
- (41) 通学路・道路なども考えてほしい。(40代女性)
- (42) 立川と町田の様に八王子も色々な面で駅の周辺をもっと人が集まって来る様な事を考えてほしい。(60代男性)
- (43) 八王子市の顔となる八王子駅頭の美化について。生活の中心であり、魅力あるまちづくりについて考えて欲しい。(50代男性)
- (44) 竹林を里山に変化する - ビオトープの意義。小動物が生存出来る地域 人間が住みやすい地域。(60代男性)
- (45) 大学との協働を進めるためについて。(20代男性)
- (46) 交通問題(北西部)(50代男性)
- (47) 本当に必要な店は何か? 街並みは何か? 施設は何か? アンケートが必要だと思うが。(60代女性)
- (48) せっかく出た意見をもっと進めて話し合うことが必要というコーディネーターの方に同感です。(60代女性)
- (49) 緑のつながる八王子(50代女性)
- (50) 八王子のめざすべき姿。具体的にしぼったテーマで出来ないか。(60代男性)
- (51) 安全なとりくみ(40代)
- (52) 高尾に温泉を! 観光市八王子をめざして。(40代男性)
- (53) 環境問題について(土地の開発と緑地の関係。ゴミのない町づくり)(60代男性)
- (54) 八王子の街を復活させる(今死んでいる)(70代男性)
- (55) まちづくりの具体的なテーマを分科会にして下さい。(50代女性)
- (56) 市の地域差について。中心とはずれの差。市街地と調整区域の差など。(50代男性)
- (57) ゴミ問題。タバコのポイ捨て等も含めて。(40代女性)
- (58) 八王子の教育,老後を快適に過ごすためには,八王子の治安の改善,八王子の未来のために。(30代女性)
- (59) 市全体を対象に歩行時のキンエン!(70代男性)
- (60) お年寄りで「元気で明るく」すごして、認知症を少しでも少なくするためにどうしたらよいか!(お年寄りと子供達が遊んだり、お話をしたり、お互いの手作り作品を作ったり等)(60代)
- (61) 学校給食の滞納がニュースで発表しています。人間性のモラルがとわれております。何故解決できないのでしょうか?(60代女性)
- (62) 1.高尾駅南北道路を早急に作ってもらいたい。2.八王子駅南口の開発を早急に図ってもらいたい。(70代男性)
- (63) 歴史と未来を融合させるようなもの。例えば甲州街道を考えろ!!(60代男性)
- (64) ソフトな面の街づくり(50代男性)
- (65) 若者が集いやすい町づくり(無料・低価格でライブが出来る場所・会場をつくることなど)(60代男性)
- (66) 市活性化の具体例(70代男性)
- (67) 交通体型をテーマにしたフォーラムを検討願いたい。(50代男性)
- (68) 兎に角今回の参加者の多かったことについては、市民関心の高さにおどろくと共に、今後はこの条例の十分なPRをお願いします。PRのポイントは「これはみなさんが行動、活動をサポートするためのものですよ」(70代男性)

- (69) 地域の中での子育て、地域と小・中学校の関係づくり、などなど。(40代男性)
- (70) 「教育フォーラム」って(市長さんの)ありましたか?(40代女性)
- (71) 防災対策。リスク管理をテーマに。(60代男性)
- (72) 市民の自主活動の情報公開 - 市民の参加を促す事に役立つ(70代男性)
- (73) 里山の復活(60代男性)
- (74) 住み良いまちづくり(70代男性)
- (75) 地域に暮らす一人住まいの方への見守りネットワーク(70代男性)
- (76) 市内の活性化。店も現在は早く閉め、暗いまちでさみしいです。(70代女性)
- (77) 次を計画して下さい。(70代男性)
- (78) 駅前の美観とりあげる? めじろ台の景観、民間の会社の敷地とのかねあい、難題。(50代女性)
- (79) 八王子の観光都市づくり、観光について。 八王子に住んで、生き甲斐を感じるために。(60代男性)
- (80) 具体的な活動状況を報告したらと思う。今までの個人的グループに、研究結果を収録したレポート(判りやすい報告書)が入ると喜ばしい。(70代男性)
- (81) 川・公園・林(森・斜面緑地)の保全育成(50代)
都市建築関係以外(例 安全・安心)(60代男性)

げんき
フォーラム

市制90周年 魅力あるまちをめざして ～ 地域で育むまちづくり～

市は毎年、市政に関わる様々なテーマについて、市長ほか3名のパネリストによる公開討論をおし、市民の皆さんとともに考える「げんきフォーラム」を開催しています。

今回は、市制90周年と「八王子市地区まちづくり推進条例」の施行を機に、地域で展開するこれからのまちづくり活動について考えます。

ご来場の皆さんとの意見交換も予定していますので、ぜひご参加ください。

【日時】 平成19年 1月27日(土) 午後2時～4時

【会場】 クリエイトホール 5階ホール

(八王子市東町5-6 648-2231)

参加費無料・申込不要、直接会場へお越しください。

コーディネーター 林 泰義氏 【まちづくりプランナー、NPO玉川まちづくりハウス運営委員
千葉大学客員教授、政府審議会の専門委員などを歴任】

パネリスト 関谷 真一氏 【NPO法人らいふ舎理事長、一級建築士】

荒井 嘉夫氏 【みなみ野自然塾運営委員長】

和田 聡美氏 【公募市民(大学院生)】

黒須 隆一 【八王子市長】



平成19年1月1日
新たなまちづくりの手法として、
「八王子市地区まちづくり推進条例」
を施行します

手話通訳があります。

1歳から就学前のお子さんをお預かりします。ご希望の方は事前に下記までお申し出ください。

問い合わせ 八王子市 総合政策部 広聴広報室 (TEL 620-7411・FAX 620-7322)

八王子市 まちづくり計画部 都市計画室 (TEL 620-7258・FAX 627-5915)

八王子市のホームページアドレス <http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>

『げんきフォーラム』アンケート

本日は、『げんきフォーラム』にご参加いただきありがとうございました。お手数ですが、以下のアンケートにご協力をお願いします。

アンケート用紙は、お帰りの際に回収箱にお入れください。

1. あなたについてお聞かせください。

(1) 性別 男 ・ 女

(2) 年齢 10代 20代 30代 40代
50代 60代 70代以上

2. 『げんきフォーラム』を何でお知りになりましたか。

(1) 市広報 (2) 市ホームページ (3) ポスター・チラシ (4) 知人
(5) その他 ()

3. 今回のテーマはいかがでしたか。

(1) 良かった (2) まあまあ良かった (3) あまり良くなかった
((3)の理由:)

4. 『げんきフォーラム』に参加して、まちづくりへの関心が高まりましたか。

(1) 大変高まった (2) まあまあ高まった (3) かわらない
((3)の理由:)

5. パネルディスカッションの内容等について感想をお書きください。

6. 「魅力あるまちをめざして」についてのご意見・ご提案をお書きください。

7. 今後、取り上げてもらいたいテーマ等をお書きください。

8. 最後に、『げんきフォーラム』に参加しやすい曜日・時間帯はいつですか。

(1) 平日の夜間 (2) 土曜日の午前 (3) 土曜日の午後
(4) 日曜日の午前 (5) 日曜日の午後

ご協力ありがとうございました。